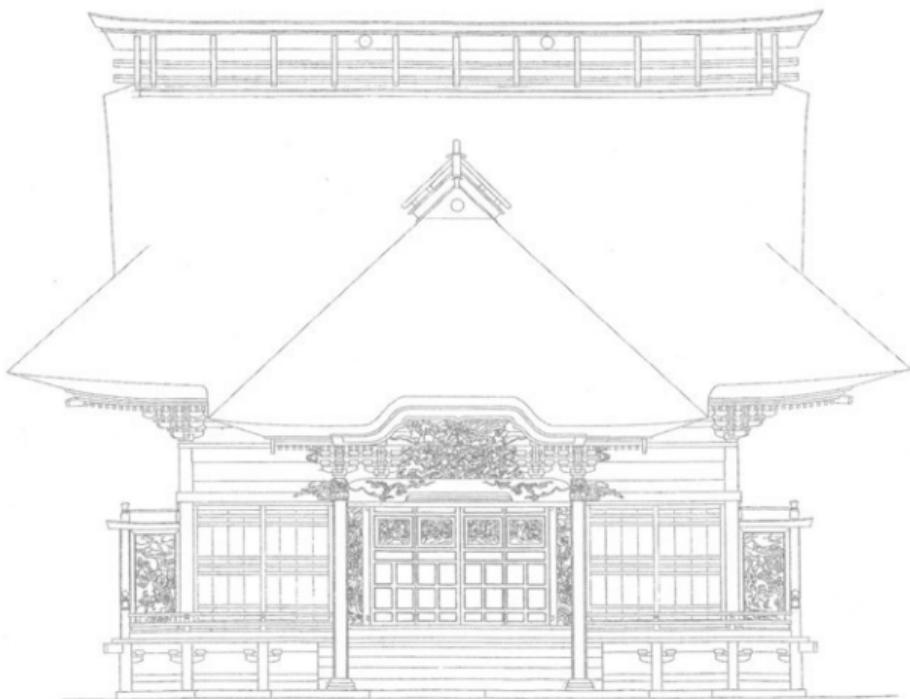


# 文化財調査報告書

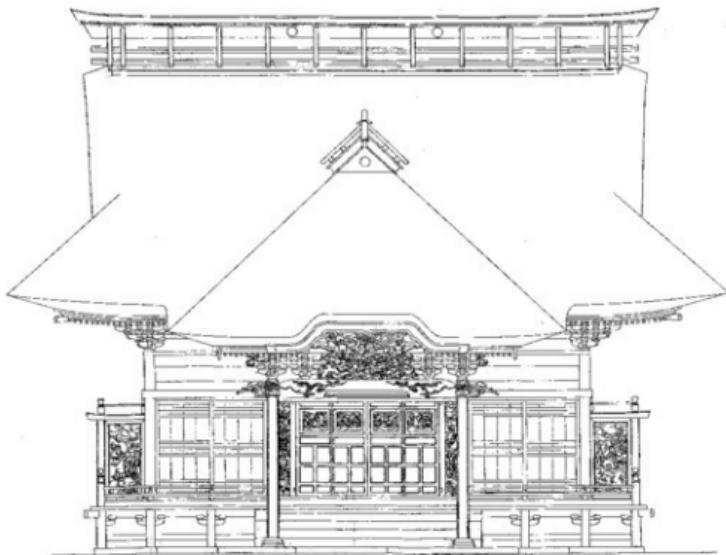


前橋市教育委員会

平成5年度

第24集

# 文化財調査報告書



平成5年度  
前橋市教育委員会  
**第 24 集**

# 序

文化の創造は足元を見ていてはできないものです。1年、2年先のほんの少し先に目標はおけないものなのです。

前橋市民の文化性の向上のために今果たさなければならないこと。それは21世紀から先をも見通した文化の創造のための準備であろうと思うのです。すぐには実を結ばないが、今やっておかなくてはいけない。いまからやっておかなくてはいけない。こんな仕事が文化財保護の仕事です。

文化財の活用がさかんにいわれるようになり、発掘だけでなく管理運営、普及整備、調査事業がすすめられる中でも地道な仕事を積み重ねています。

大室公園史跡整備では、中二子古墳の範囲確認調査が行われ、埴輪の検出など貴重な成果を得ることができました。整備委員会においても、史跡整備、民家変遷、資料館部会がそれぞれの計画の中で活動しました。

歴史散歩道整備については、案内板の設置、散歩道地図増刷など利用増進にむけた事業が行われました。元総社、総社地区での散歩道利用促進の秋元歴史まつりも第4回となりました。

普及事業としては、郷土芸能大会、文化財展、文化財普及講座、史跡めぐり講師派遣等の事業を実施しました。

調査事業では、本書に記載の文化財調査委員の調査に加え、専門家調査、建造物調査を行いました。

埋蔵文化財発掘調査では、開発に伴う発掘調査、遺跡の発掘調査と芳賀団地遺跡の報告書作成作業があげられます。元総社明神遺跡は第12次、内廬遺跡は第7次、大屋敷遺跡は第2次調査などの調査を実施し、貴重な遺跡の記録保存を行うことができました。中二子古墳の調査では、埴輪の検出などの成果を得ることができました。

最後に、こういった諸事業にご指導、ご協力いただいた関係各位、機関に深く感謝申し上げると共に、この文化財調査報告書第24集が文化財保護の一層の推進のために活用されることを祈念し、結びといたします。

平成6年12月

前橋市教育委員会

教育長岡本信正

# 目 次

## 序

### 目次・例言

I	文化財調査委員による調査	1	(12)その他	23
	産泰神社文化財調査	1	4. 調査事業	24
	神社縁起	2	前橋十景の寄せ歌	24
	石造物一覧表	3	5. 埋蔵文化財発掘調査事業	25
II	文化財調査	11	本年度の発掘を振り返って	25
	妙安寺、葵紋幕調査	11	(1)中二子古墳（西大室町）	28
	産泰神社建造物調査	12	(2)内堀遺跡群（西大室町）	28
III	新指定物件紹介	14	(3)大屋敷遺跡（総社町）	29
	県指定物件	16	(4)地田栗田遺跡（西大室町）	29
IV	文化財保護事業	18	(5)中並木遺跡（飯土井町）	30
1.	管理運営事業	18	(6)嵐城遺跡（嵐町）	30
	(1)国有文化財管理	18	(7)元総社明神遺跡（元総社町）	31
	(2)国・県・市指定文化財管理	18	(8)中原遺跡群Ⅲ（上増田町）	31
	(3)史跡の除草・清掃作業	18	(9)前橋城水曲輪門遺跡（大手町）	32
	(4)文化財バトロール	18	(10)芳賀岡地遺跡	32
	(5)前橋市蚕糸記念館の整備及び管理	19	(11)市内遺跡	33
	(6)共催及び後援	19	6. 大室公園史跡整備事業	34
	(7)女堀追加指定告示	19	(1)大室公園史跡整備委員会	34
2.	整備事業	20	(2)古墳整備部会	34
	(1)総社歴史散歩道整備事業	20	(3)民家変遷部会	34
	(2)八幡山古墳修復工事	20	(4)資料館部会	34
	(3)天川二子山古墳補修工事	20	あとがき	36
	(4)標柱、説明板、案内板設置工事	21		
	(5)史跡境界杭設置工事	21		
3.	普及事業	21		
	(1)第19回前橋市文化財展	21		
	(2)文化財めぐりパンフレット増刷	21		
	(3)第6回文化財愛護作品コンクール	21		
	(4)第21回前橋市郷土芸能大会	22		
	(5)教材開発事業	22		
	(6)第12回文化財普及講座	22		
	(7)史跡・文化財めぐり	23		
	(8)各種講座への講師派遣	23		
	(9)文化財防火デー	23		
	(10)文化財資料の貸し出し	23		
	(11)文化財保存団体助成	23		

## 例 言

1、本報告書は、前橋市文化財調査委員の文化財調査と前橋市教育委員会管理部文化財保護課で行った、平成5年度の諸事業の概要をまとめたものである。

2、本書の企画と編集は文化財保護課で行い、市民の方にわかりやすい表現、構成を心がけた。

## I 文化財調査委員による調査

### ●産泰神社文化財調査

○名称 産泰神社

○所在 前橋市下大屋町569

○宮司 鮎登茂行

市内下大屋町に所在する神社で、祭神は木花之佐久夜毘賣命である。古くから安産の信仰をあつめ、県内はもとより埼玉、栃木などからの参拝者が多い。赤城山の流山の上に位置し、遠くから建物を望むことができる。

享和元年に正一位となり、明治41年に下大屋町内の無格社12社を合併している。旧村社である。例祭日は4月18日で、17日、18日には神樂（市指定無形文化財）が奉納される。

建物は境内に9棟あるが、境内地と共に平成6年3月25日付けで県指定重要文化財となった。

建造物については、別掲建物調査ならびに県指定の説明を参照していただきたい。

なお、指定に先立ち、本殿について県が調査を行った結果は次の通りである。

#### 1. 建築年代について

棟札にある通り、宝曆13年（1763）である。床下の南東の柱に「宝曆十三」の墨書きがあることからも確認できる。内部見返しに朱書きがある。「宝曆十四年 四月八日まで 上州伊与久村 同境町

妙口 忠七 嘉七」この朱書きとほぼ同じ文面が、床下北西柱に墨で書きかれている。

#### 2. 本殿の彫刻について

建物の壁面の彫刻は、建築当初ではなく、後に作成され、嵌め込まれたものである。その理由としては

- ①羽目板が全体に風化している。
- ②彫刻の下まで、金箔と絵柄がはいっている。
- ③彫刻が銅線で羽目板に止められている。
- ④木鼻のほぞの長さが短い。

背面の墨書きは番付けがほとんどであり、それ以外の文字は意味が不明である。墨書き中の戌七を年号とみると、該当する年号は安永七年（1778）である。彫刻は、大きいものは二枚の松材をこみせん留めをしている。

#### 3. その他

本殿の脇障子は当初からのものである。本殿の内部見返しの斗栱に墨書きがある。「松藏政七 金兵衛」また、宝珠の絵が書かれている。幣殿は、拝殿と独立して建てられた。

彫刻の一部に、和釘とかすがいで留められているものがある。

什物調査の中では、幣殿内部の額と天井絵、収蔵庫に保管されている考古遺物などの調査を行った。

人物埴輪の頭部は、アーネスト・サトウのスケッチにててくるもので、高さ35cm幅13cmである。ほかに、壇2点、提瓶、壺、豆塚があった。

#### 什物中の考古遺物

人物埴輪の頭部	高さ35.5cm
幅16.5cm	顔厚さ13.7cm
壇　　高さ15cm	径17cm
壇　　高さ15cm	
提瓶　高さ30.5cm	径24.5cm
厚さ18.1cm	
壺　　高さ12.3cm	径10.2cm



## ●産泰神社縁起

社傳古誌古記録小田原北條氏ノ乱ニ焼滅シ鎮座年歴詳カナラス里人古老ノ言伝ヲ書記シタルモノニ日本武命東征ノ日創メテ此地ニ勸請セシト云亦履仲天皇ノ御宇元年トモ云ヘリ旧史ニ關何レカ是ナルヲ知ラレス本村往古ハ大祖ト云此ハ御祖ノ大神等ノ御靈此地ニ鎮座ス故ニ呼初メシ里ノ名ナリト云ヘリ室屋アル地ヲ大室ト称シ火ノカゝリシ地ヲ大越ト云フ御子産ミ給ヒシ地ヲ子出ト云ヒ雅子ト云ヒ荒子ト云フ此レ皆大神ノ御子産マシ給フ御イハレト御子トニヨリテ呼初メシ里ノ名ト言伝ヘリ後亦大宅ト云ヒ大屋ト云フ大宅朝臣大國上野ノ守トナリ宮殿ヲ再建セリト云フ本村ニテ明神山明神田ト云フ地ハ元大神ノ神地ナリシヲ鎌倉幕府以来守護地頭ノ変遷ニヨリ民有ニ帰セリト言伝ヘリ前ニ記セシ兵乱ノ禍災ニ罹リ民家神家ハ更ナリ神殿ニ至ル迄焼失其後形計リナル宮殿造立シアリタレト神威ノ著シキ事古ヘニ変ラス安産守護ノ大神ナル故守護地頭ノ崇敬浅カラス中ニモ酒井雅楽頭ハ崇敬至厚ニシテ前橋在城ノ際宮殿ヲ營繕シ南向ナルヲ西向ニ直シ本城ト向ヒセ守護神トシテ崇敬セリ故ニ自筆ノ額面難刀御簾等奉納アリ播州姫路ヘ国替ニナリテモ時々御代參アリタリ当社ハ古ヨリ鳥類本殿ニ至ラストノ言伝ヘアリ今モ現ニ數百ノ雀境内ニ居リ神門拝殿神樂殿拝見所等ニ年々巣ヲツクルト虫庄更ニ本殿ニ至ラス里人及諸国ヨリ参詣ノ男女称シテ御神威ヲ恐レ鳥類本殿ニ近寄ラスト鳴フ又一説アリ謙訪和四郎ト云モノ一心込メテ彫刻セシ魔アリ故ニ鳥類恐レテ近寄ラストモ云ヘリ

奉再建宝曆十三癸未年四月二十三日神主小糸豊前守藤原忠安五十三才ニテ建立トアリ

享和元年十月二十六日 御詔書ニ

中務達在大邑厚恵黎民不附不副其靈維新宜授崇位式著神明可依前件主者施行

同年同月同日正一位二叙セラレ大神宮号授ケラル位記口宣アリ

宮殿ハ本殿幣殿拝殿隨神門神樂殿拝見所等ナリ皆人獸草木花鳥虫魚蟹波等ノ彫刻ナリ木國ハ更ナリ諸国ヨリ参詣ノ輩何レモ宏壯美麗ナリト云ハサルハナシ上野安乗中揭載ノ社ニシテ名所古跡ト称スヘキモノナリ亦境内ハ天然ノ風致秀抜ニシテ実ニ美觀勝地ナリ樹木ハ桜松榕檜ノ老木繁茂シ其他大巖石等ニシテ其景色タルヤ東ニ向ヒ八笠掛野西ハ道ニ群馬ノ里ヲ眺望シ北ヲ仰ケハ赤城山数村落ノ外ニ聳ヘ南ヲ望メハ数里外ニ利根ノ大河アリ其容帯ノ如クニシテ国界ヲ回ル平地中ノ一小山ナリ本社其上ニ位ス裏ニ大巖石アリ宛毛臺メルカ如ク自然高低アリテ別ニ連山ノ風色アリ或ハ笑力如ク或ハ怒ル力如ク本社ハ之ニ抱レタルニ似タリ数十ノ末社ハ其上ニ散在ス參拝ノ男女之ヲ攀ルニ亦自ラ小怪アルカ如シ就中巖屋アリ胎内潜リアリ影形石アリ硯石アリ舟石アリ磁石アリテ鉄氣ヲ吸フ好事ノ人是ヲ能スルニ針釘ヲ以テス奇絶ト云シカ神造ト称セシカ

## 産泰神社 石造物一覧表

1 石 灯籠	400	140	140	太々御神楽 奉納 御神燈 太々講中 (上東) 世話人 高坂政五郎 高坂國八 高坂吉造 上植木村 川端良平 川端喜惣治 藤田勇之助 尾鷲 高津安兵工 同 志村平左工門 □ 紙屋兵市 嶋村 宮下新左工門 宮下莊左工門 □ 岡 井上忠造 女屋村 女屋仙兵工 女屋矢造 女屋安造 苗嶋 前原久右工門 境町 酒屋作兵工 大室 酒屋利平 嘉多松兵工 桐原 田中屋口松 (上南) 惣社 □水屋清左工門 六丁目 村田屋 伊兵工 □丁 銀屋貞治郎 □丁目 浪屋彌造 橫町 宮澤彌助 上長瀬村 関市五郎 社役人 鹿賀喜代司 塩原吉彌 斎田内記 大塚 太兵衛 □町與市郎 高草木口道 天笠左仲 茂木吉市郎 阿部和輔 本多慶輔 霜田善右衛門 山本英之進 磯川勘藏 富田村 星野六太夫 荒口村 阿部和助 □□上宿 ⑤小暮定治郎 山神村 小川八郎工門 (削り直し) 上□ 森下定翁 岩鼻 田村甚兵衛 前川彌吉 (上南下の段) 市場 □藤和十郎 五日牛 菊池 仲右工門 上植木村 矢嶋栄左工門 □藤新兵工 油屋嘉市郎 新井与□ 新井新治郎 天川新町 下田半兵口 三州屋与兵工 下田庄三郎 武藏屋清助 近江屋善吉 永田秀吉 古久屋利吉 小泉村 関平五郎 関龍治郎 房丸 清水茂右工門 山神村 角屋材造 小川弥三郎 小川傳八 小川 由右工門 □八 坂田栄造 坂田嘉助 大原 大津屋佐市 近江屋源右工門 小暮 小林条右工門 渕名 細谷善兵工 下川口村 岡本与右工門 岡本与□工門 上大島村中 (中南上) 小池菊造 田中増右工門 向山筆治郎 渋井伴造 小池松五郎 德治郎 柴山國吉 福岡徳三郎 石倉 小峯勇吉 矢沢彌四郎 萩原 高柳兵治郎 同 向山岩吉 □□ 本間子之吉 □久保 伊藤市造 □□□ 山田屋嘉治郎 □□大平 中嶋國右工門 玉村 小林屋嘉伊兵工 石井熊治郎 角 小屋原彦六 飯口 関田弥三郎 小泉村 関口直茂 信州蟹沢村 高山末吉 荒口村 阿部辨吉 飯土井 石綿安六 新川 斎藤寅吉 明石屋源造 中□ 本庄源五右工門 川田林造 西田松左工門 上里見村連中 浅原 金子直吉 大間々 吳金兵工 天王口 有賀吉太郎 前山 中山利兵工 同 中嶋常治郎 新シク 中山半五郎 同 中山伴助 ウシロヤ 高見宇吉 □□ 河内長治郎 同 河内萬吉 □ 山崎左七郎 境町 内田莊治郎 同 北原九兵衛 金井 矢澤口吉 越後 山口音吉 堤村 五十嵐多治郎 福嶋 中沢倉造 □□ 栗原平造 前橋 井口金兵工 石屋口吉
--------	-----	-----	-----	---

		石原口吉 原 酒井兼吉 小久レ 酒井惣左工門 若林萬之助 ハサキ 渡辺門司郎 江木 佐野文造 鷗村 佐市 石井 高橋重造
		(下南) 桐生 □□屋掛賀郎 全 岡本龍右工門 岡本市造 高橋志ん 上長磯 市五郎 木村廣□ 山□□□ (一名欠) 須田吉五郎 吉造 □弥 □□重吉 □□村 高木四郎兵工 栗原勘兵工 同 忠十郎 □ 直治良 兵吉 立石 金井□郎 右工門 □□ 太□□ 玉村 土井□作 飯土井村 重藏 岩□村 □屋友王郎 堀口馬之丞 石原安直郎
		(上北上) 大胡町 山田定吉 三川桑治 星野源兵工 上大屋村 鹿沼半兵工 鹿沼栄蔵 山口忠右工門 山口四郎右工門 山口半平 山口勝兵工 越中富山薬屋連中世話人 松野屋牛込伊兵工
		(上北中) 茂木村 木原三二右工門 林茂 兵工 林五左工門
		(上北下) 柏倉村 阿久沢武兵工 松村市郎治 西柏倉 大崎莊兵工 市之関 小池文左工門
		(上北) □川 内田太良兵工 相生下新田村 大曲村 藤七家青木伊兵工 館林 林屋喜助 青屋木喜三郎 飯塚久兵工 □沼治兵工 井田金七郎
		(中北上) 當所 木村長太郎 木村清吉 木村作右工門 □清五郎 石工 紋治郎 石工 春吉 高崎石工 久治郎 下□田石工 寅吉 白川石工 重吉 柏倉石工 佐十
		(中北下) 川□□村 千本木嘉代治 同 吉浩 豊坂清兵工 江原藤左工門 江原佐市右工門 須藤惣五郎 茂木音右工門 高橋惣治 イヨク 細谷勇吉 上□□ 矢島左兵工 西横沢 大沢佐七 川原漬 品川常右工 泉沢 茂木源治良
		(中北上) 善□市城 中沢十兵工
		(中北下) 安中町 石工 矢吉 ヲチマ 石工 常吉 コイ□□ 石工 萬吉 石工 千代吉 ヲコ 石工 重吉 ヲ 石工 米藏 " 石工 兼太郎 ヤハラ 石工 與市郎 クリマ 石工 初太郎 コイハラ 石工 安兵工 下□□ 中沢萬兵工 月田 開口佐一郎 女瀬 真下桂重 深沢 清之丞 佐野 立田嶋弥 編屋半七 下長磯 中沢萬兵工 森村武右工門 富田村 信沢久五郎 八木 阿部□兵工 宿 井川屋巳之吉 足利大日 小倉林兵工 大門丁 □田清吉 太田町 伊勢屋總七 大嶋勘助 大嶋仁兵工 鈴木萬三郎 鈴木清七
		(下北) 柏倉 阿久沢正右工門 同久太夫 同 兵右工門 小薔 須田喜平治 當所 斎藤佐傳治 秋原兵之丞 木村まさ 萩原角治郎 馬場由五郎 東柏倉村 田村長兵工 西柏倉村 前原彌兵工 前原常八 石原菊藏 六本木善左工門 東柏倉 大崎千太郎 村上村 村上伊右工門 佐野南嶋村 □田伊左工門

		(上西上) 飯鳴善八 飯嶋雄藏 前橋本町 柏屋勝藏 片貝町 町田文治 荒子村 飯鳴民吉 高崎本町 下妻屋徳兵衛 當国群馬郡 箕輪宿 上村安五郎 荒口村 阿部善兵衛 大前田村 田島英翁 上野村 大谷喜兵衛
		(上西下) ハシノ口 矢内新蔵 矢内貞蔵 高野養造 横堀元太郎 二ノ宮 岡政吉 棚沢久造 玉村 萬屋佐重郎 □□ 関根屋存三郎 前橋町 白銀屋文之助 福田屋栄治郎 奥平莊兵工 梅田四郎 中村屋兵右工門 外屋熊吉 中喜屋勝助 東善 新井三代吉 茂木 庭山藤治郎 大胡 褒屋正捕 玉村 関根屋内之サ 上増田 大山才兵工
		(中西上) 玉村 玉木屋新右工門 梅木昌造 市口屋定右工門 高橋昌吉 吉田屋正造 房吉 早川彦捕 永楽屋 井田助右工門 越後 大工 山岸源助 大工 油屋音松 高崎嶠名村 吉左工門 山王村連中 太田 河田儀助 新堀村連中 山王村 関根佐七 玉村宿 関根屋内よ 関根屋内や 佐藤久五郎 小暮鳴八 前橋 柏屋利助 □井 梅沢政吉 岩鼻村 根岸新右工門 根岸常治郎 根岸房太郎 根岸喜兵工 増田義七 □□村 内田茂畫郎 中内村 清水忠右工門 富田村 増澤平治郎 下大鳴 梅沢与右工門 信州野田沢村 宮川清八 堤村 五十嵐志す
		(中西下) ここは全員「世話人」 下長磯村 福田嘉兵工 田代平五郎 小山儀右工郎 下田吉左工門 下田仁兵工 小山弥吉 中沢平左工門 根岸徳治 中沢左兵工 下田紋治郎 川嶋駒藏 福田武兵工 福田嘉左工門 (彫り直し) 満野宗兵工 大沢久左工門 川嶋宗八 川嶋宗吉 川嶋宇兵工 小山宗左工門 小山弥市 笠原藤八 中沢弥左工門 中沢清左工門 森村吉五郎 森村儀左工門 大沢幾右工門 大沢久五郎 下田弥七 小山林兵工 中沢久兵工 生形安造 小山多曾七 上口田 阿左見瀬兵工 新保 信沢喜 重
		(下西) 當所 離登甚五郎 女屋村 女屋伊作 女屋由兵工 田代糸治 女屋与兵工 筑井村 (ここは全員世話人) 植栗吉右工門 須藤与右工門 須藤勘助 須藤重太夫 須藤源藏 須藤□八 須藤善治郎 須藤深吉 小屋勘作 中嶋市右工門 宗甫分村 林傳治 林□□ 林傳□
		(中東) 當所石工 願主 山口豊蔵茂聲 斎藤松右衛門 木村長吉 秋原清左工門 斎藤柏藏 岡田三良治 萩原清重 木村六左衛門 八木原幾治良 木村吉兵工 山口力藏 八木原茂聲 鰐登太兵衛 八木原民藏 金澤弥兵衛
		(中東下) 前橋 宮下莊治郎 本町 北原藤左衛門 中村政右工門 柏倉 中山松太郎 同村 伊藤兼藏 ミヨ沢 湯沢八百太良 □□ 伊藤由兵衛 同 北原平左工門 伊藤治兵工 女剣 真下要吉 同 石工 德治良
		(中東上) 石工世話人 太田 有賀仲八 □セ

							金井久之蒸 □□ 勝田松造 □□カヤ 根岸国治郎 □久セ 武田八百造 □主堂 東田政五郎 □□ 伊藤平七 高崎新田町 相沢小右工門 藤沢徳兵工 深井源七
							(下束) 東大室村 福嶋儀右衛門 福嶋伴助 福嶋権之助 福嶋周造 中沢幸治郎 中沢林太郎 中沢角治郎 中沢源右工門 福嶋幸右工門 福嶋弥兵工 福嶋彥左工門 加藤般之造 奥野十治郎 奥野七右工門 加藤權造 武藤八十吉 福嶋大門治 桐生下新田 林田直右工門 中嶋政左 前原房吉 橋本弥右工門 □木□工兵 清水口三郎 飯塚久兵工 □町 藤掛勝治郎 林堅町(世話人) □屋六木屋 所 平三郎 勝右工門 同 江原屋半右工門 田澤屋口左門 扇屋長六七 金原己之助 □宿 山木屋伊三郎
							(台座東北) 右エハ 大胡三十丁 赤城三リ 伊香保九リ
							(台座東南) 左 前橋三リ 高崎六リ 玉村五リ 二宮十九丁
							(上東) 記 1971年県道前橋今井線拡巾工事ノ タメ下大屋町616番地ヨリ572番地へ移築ス 自治会長 萩原稻作 全代理 須賀正一 全副 岡田良太郎 氏子総代表 木村庫治 全副 天笠正雄 宮司代理 鹿登欽助 総代 八木原鶯次郎 全 斎藤賛二 下大屋町石工 鯉登初男 宮城村石工 大崎巖
2	石 灯籠 一対	196	60	60			御神燈 富房代 當所 願主 鯉登口弥 信濃國 伊奈郡 高遠領 青嶋村 講中 世話人 北原豊藏 御神燈 富房 富義代 野州都賀郡 高根澤隱士 本多慶捕 藤原義高 嘉永六年癸丑年 七月廿一日 火袋に 本 ダ 氏 とある。
							信州高遠領 願主石工 青嶋村 北原豊健義番 境村 中庄村三郎 南福地村 池上吉藏 全 北山房吉 藤沢 福治郎 八幡山 石工 万吉 境町 山田長治郎 佐渡直兵衛 初右衛門 德兵衛 2基
3	石 灯籠 残次						
4	庚 申 塔	188	37	45			猿田彦古大神 萬延元年庚申歲十一月之吉樹 (文面は別掲載)
5	道 祖 神	69	32	18			道祖神 文化十三年内子年八月
6	産泰祠占修路碑	163	62	35			産泰祠占修路碑 (文面は別掲載)
7	安 産 母 替 神	88	44	21			安産母替神 明治己年二月吉日 大屋 荒子 大室 馬子 等
9	石 灯籠						残片二基
10	庚 申 塔	87	43	39			猿田彦大神 萩原長兵工
11	石 祠	88	58	82			諏訪大明神 下大屋 別當 蔷薇寺 法印 義者 詞之 時享保二十一年丙辰天五月吉良日
12	庚 申 塔						奉供養庚申二世安樂示施主敬白 延寶八庚申天 十一月吉日 □□安衛門 同□工兵 戸丸□工兵 戸丸八工兵 山口伊兵工 萩原口右門
13	手 洗 い 石	100	185	101			盥洗盤 長是水敷書 文化八辛未年霜月吉日 桐生 下久方村 清兵工 講元世話人

					前原甚右衛門 金子善右衛門 田嶋口兵衛 世話人 清水嘉兵衛 講中 中村富右衛門 講中壺組 相生町一丁目 世話人 蝶間正治郎 同 眞間屋伊八 講中 中澤新助 同 落合惣兵衛 講中 関口金兵衛 同 前原吉右衛門 講中二組 奈良屋口藏 二丁目 世話人 富田屋源左衛門 森田巣左衛門 講中 萩原清次郎 同 田村金兵衛 同 岩木茂兵衛 講中二組 三丁目 世話人 森藤兵衛 同 清水久右衛門 佐羽清右衛門 講中壺組 四丁目 世話人 森善八 同 吉田安兵衛 五丁目 世話人 吉田源兵衛 講中 新原治左衛門 同 金子文治郎 同 川嶋茂兵衛 講中壺組 六丁目 世話人 仍口定衛門 黒川新助 安田惣兵衛 講中三組 桐生今泉村 世話人 高橋平左衛門 吉田重兵衛 岩崎勘六 小窪茂兵衛 講中二組 新宿 世話人 周東萬衛門 同芭弥七 口田小右衛門 青梅屋茂兵衛 立原佐口衛門 斎藤忠藏 講中二組 村口 世話人 朝倉左衛門 講中壺組 口口 講中二組 世話人 口口口 村世話人 大村口口 石工樋梁 西村安蔵 興治 御宝前 産泰宮 御神燈
14	石灯籠一对	304	128	128	(東) 本町 竹内庄左衛門 西田清右衛門 瀬川太兵衛 中野屋茂兵衛 濱屋亦兵衛 節屋五良兵衛 江州屋伊兵衛 近江屋嘉兵衛 設樂弥助 白木屋太助 新井甚五左衛門 細野源右衛門 小暮太良左衛門 設樂久兵衛 岡田伊八 新井久蔵 白木屋文蔵 松屋常八 武藏屋治兵衛 富屋儀助 (南) 平野屋定吉 野島屋善兵衛 新町 菊地玄仲 細野亦兵衛 細野塙兵衛 小暮口右衛門 小暮勇治 小暮久兵衛 佐藤権兵衛 櫻口吉兵衛 萩原喜吉兵衛 星野源五衛門 中澤新助 和泉屋吉兵衛 田中屋久治郎 竹屋平吉 植木屋庄左衛門 杉田佑寿 中野屋寅七 桶屋惣八 (西) 扇屋藤右衛門 吉野久兵衛 紗屋佐兵衛 鳴屋友吉 西町 大嶋茂吉 長嶋伊八 林屋卯右衛門 桜屋新兵衛 井上三蔵 美濃屋宗八 片山平吉 武屋四郎兵衛 境屋傳七 椿屋安助 和泉屋元右衛門 大田新兵衛 級屋町 萩原藤兵衛 油屋卯兵衛 大坂屋安右衛門 (北) 荒物屋佐治兵衛 紗屋善右衛門 紺屋武兵衛 八百屋清治郎 木曽吾兵衛 酒屋幸太郎 和泉屋藤兵衛 大黒屋元助 川岸町 武藤右衛門 村木屋利七 古久屋勘兵衛 伊勢屋弥右衛門 小松屋基兵衛 国定清五郎 中澤屋作兵衛 新井弥市 茂呂村 大沢多助 境町 三友伴左衛門 (南) 伊勢崎 講中 世話人 勝浅右衛門 釜屋清兵衛 大嶋儀右衛門 錢屋口右衛門 錢屋西助 錢屋普吉 小嶋屋金兵衛 日野屋源八 荒物屋源十郎 小林淺右衛門 羽尾勘助 木屋伸助 栄木屋井藏 (東) 信州高速海口村 石工樋梁 高見彥七・辰 同工 西村安蔵興堺 伊藤佐七・徑宮 (北) 文化八年辛未年 七月吉旦 世話人 赤堀宿

						萩原利右衛門 當所 木村利兵衛
15	石 灯籠					14基 火袋欠
16	石 灯籠一対	204	81	81		富房代 當國勢多郡 上増田村 岡田金助 當國山田郡 桐生常木村 小嶋立江
17	石 灯籠一対	170	54	54		富房代 信濃國 伊奈郡 高遠領 青鷺村 願主 北原義蕃
18	石 灯籠一対	154	55	55		御神燈 富房代
19	石 灯籠一対	154	53	53		御神燈 富房代 當國山田郡 間嶋村 川嶋平兵衛
20	石 灯籠	218				御神燈 富房代 東大室村 願主 中澤茂左工門
21	石 灯籠一対	215	65	65		富房代 當國 群馬郡 前橋 穂町 村田屋 喜兵衛
						御神燈 富房代 (左) 當國 都 (ママ) 馬都 前橋 桑木町
						鰐登宇兵衛 (右、東) 武州埼玉郡 羽生領 下村君村 講中
						願主 高橋新兵工 田口要蔵 藤田重蔵
						(南) 常蔵 但島 長右工門 源太良 吉五良
						金六 半平 丑五郎 磯吉 大公五良
						(西) 藤右工門 辰五郎 佐右工門 喜久五良
						勘七 國藏 勝右工門 和四藏 庄口 利口
						(北) 庄太良 口右工門 常蔵 春吉 磯右工門
						喜代吉 平吉 銀藏 千右工門 伊八 増蔵
						當國 甘樂郡 初島村 世話人 三角屋 栄吉
22	石 祠	62	43	75		村中 宝曆十二歳 一月吉日
23	石 祠	92	58	95		不詳 磨滅
24	石 祠	55	47	60		天満宮 法印我存 調之
25	石 祠	43	29	44		願主 酒造治郎 明治四年未 十一月吉日
26	石 祠	46	32	57		なし
27	石 祠	82	52	74		元文元丙辰天九月吉祥日 志誠 宮守 小糸兵右衛門
28	八幡宮	48	27	13		八幡宮
29	石 祠	64	43	62		なし
30	石 祠	63	39	77		秋葉宮 文化元甲子年 四月吉日 村中
31	石 祠	56	46	50		願主村中 文政二卯年 四月吉日
32	石 祠	44	31	40		なし
33	石 祠	69	42	44		稻荷明神 安永二甲午天
34	石 祠	52	38	58		なし
35	石 祠	48	110	89		坐神宮 (台左) 當所 馬場伊之助 木村六右工門
						齊藤森右工門 八木原民量 同忠藏 同治郎八
						萩原鉄五郎 春木秀作 木村秀吉 鯉登瀧五郎
						八木原武兵衛 萩原長兵衛 泉澤村 世話人
						小沼宗兵衛 須藤佐次右工門 石田幸右工門
						小沼定兵衛 同源蔵 須藤佐市
						(台裏) 荒口村 世話人 阿部条右工門 同
						久保田與兵衛 同岩治良 同岩藏 阿部元右工門
						同造酒藏 上大屋邑 鹿沼栄藏 伊藤治兵衛
						梅原清七
						(台右) 荒子村 世話人 天笠文治良 同
						川嶋金蔵 天笠音右工門 二ノ宮村 世話人
						黒崎幾八 同三之丞 久保田定七 鈴木八十蔵
						岡善治郎 小鶴仙五良 西大室村 世話人
						秋原勇吉 同秋右工門 同藤工門 渋沢九兵衛

					木成田弥左工門 高橋松藏 曾根藤七 井上由太郎 同伊之八 文政十三年 庚寅春吉日
36	石 祠	31	52	42	なし
38	石 祠	43	43	46	造立 法印義老
39	石 灯籠				11基 桟と火袋を欠くもの7基 火袋を欠くもの4基 (台) 信州高速 石工講中 世話人 宮下吉政 北原藤左工門 北山安兵工 宮下吉吉 (台裏) 當所 世話人 北原豊蔵義番 (棹) 當村施主 斎藤 与市 天明四年 辰年 十二月 (棹) 願主 八木原又市 安永五内申十二月吉日 (棹) 八木原氏 寛永六酉十二月吉日 (棹) 寛政元年 當村 奉納 大願成就 八月吉日 斎藤与市
40	石 灯籠	120	45	45	(棹) 金毘羅宮 當國十二社 御神燈 (基礎) 當所 願主 鰐登勘助
41	石 祠	25	42	47	山神 當村 八木原利右衛門 寛政九年丁巳 四月吉日
42	石 祠	25	41	44	願主 鰐登勘助
43	石 祠	25	38	40	山王大権現
44	石 祠	28	50	45	元口 山神薬草口物 八木原与兵衛
45	石 祠	25	42	38	なし
46	石 祠	25	41	40	なし
47	石 祠	25	38	40	十二神 願主 鰐登勘助
48	石 祠	25	37	41	なし
49	石 祠	24	36	37	なし
50	石 祀	23	42	43	なし
51	石 祀	39	53	60	南無天満天自在天神 寛文九年己酉二月九日 奉造立石宮當村講中 山口八左工門 山口伊工門
52	石 祀	24	40	45	なし
53	石 祀	46	78	89	大黒天 明和五戊子年 十二月吉日
54	大 黒 主 神	131	68	13	大黒主神 元治紀元甲子年 三月 鰐登豈前守 鰐登喜濃守 鰐登喜代司 木村源治郎 岡田富五郎 大沢吉平 斎藤藤右工門 八木原茂口 木村伊久之助 □年屋小三郎 □西屋長吉 斎藤佐次吉右衛門 萩原清右衛門 八木原孫六 山口豊蔵 木村重成 須賀喜十郎 馬場榮左工門 鰐登八三郎 馬場由三郎 木村六左工門 金澤平次郎 木村清吉 八木原庄兵衛 濱屋辰五郎 天笠佐忠 鰐登口治郎 萩原鉄五郎 八木原源重郎 斎藤松右衛門 須賀文口郎
55	日露戦役記念碑				日露戦役記念碑 海軍大將東郷平八郎書
56	日露戦役實神徳碑				
57	船乗り七福神 (甲子船乗り大黒)	50	65	75	

猿田毘古大神の碑文

澳あかの えさるかたなき ともふねは  
あまやさきたつ 魚やさきたつ

其ハ九百四十年許前源順朝臣神風乃伊勢齋宮に侍  
らひける時庚申の夜かのえと云五言の歌中によみ  
入て獻れりの歌也 蓼歌意ハ猿田彥大神漁したま  
ひ事鰐魚虜物はたの挾物を聚め天神につたへ奉ら  
しによりて海人の釣する情によせ さて天宇受売  
命猿田毘古大神に向ひて 汝先立行乎そもそも吾  
先たちゆかむ かえ口と言語よせりてあまやさき  
立魚や先立とよまれたり可たればめ皇国人庚申の  
夜猿田毘古大神に祭れる事そのみにいのりはや久  
し然 庚申を守と云し 言すべから乃道家のおよ  
づれ言より始まるにてこの大神なも庚申云物也等  
思はひがごなるよし鈴屋大人氣吹舍大人等乃書  
に其委曲にありける醫正方恐る恐れみ記也

鯉登豊前 鯉登信濃 岡田三郎治 萩原清治郎  
齋藤代八 鶴登柳助 齋藤天吉  
齋藤浅右衛門 木村六左衛門 八木原幾治郎  
八木原正兵衛 齋藤傳治郎

産泰祠占修路碑

產泰神之顯千世已久矣故遠近超拜者道路為羣而祠  
西

邵路曲折罔遠往來不便然阡陌縱橫不能改其舊轍也  
本

邵雖登勤助老人先是方本祠中興之初精進勇猛竭力  
於

其畢而亦曲路蔓不便欲開式條直路而懇請之鄉里衆  
人

乃聽焉於是劃開田園為一條路積年取薹一旦快然鄉  
里

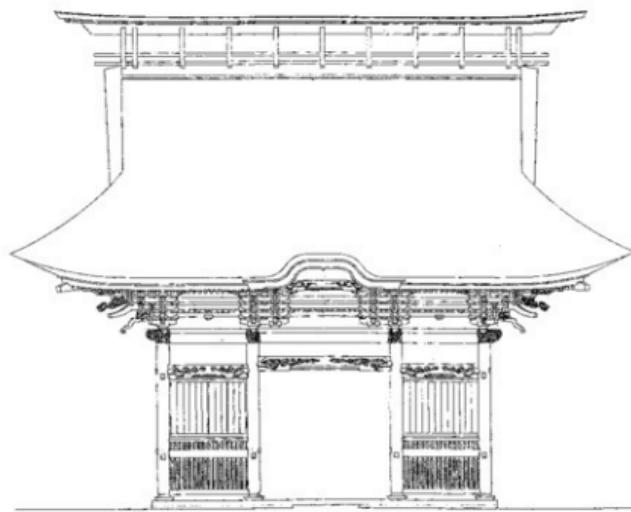
大悅嗚呼老人營為之功與衆人隨喜之善是寧非神之  
所

冥佑乎使朝記其事勒石誌後人云

鈴木惟親 撰  
飯寿悦雄 書

天保七年兆信春二月

石工北原義番



産泰神社 隅神門

## II 文化財調査

### 妙安寺・葵紋幕調査

紫紗綾地葵紋幕

2張

桃山時代・17世紀

(1) 幢1.85m 横11.2m

(2) 幢2.45m 横2.95m

(1) 平地に経四枚縁で雲龍の丸文を織り表した紗綾に、縫い締め紋りの技法で徳川家の紋である三葉葵紋を五つを染め表し、これを幕に仕立てている。紗綾は、桃山時代から江戸初期にかけて中国から盛んに輸入され用いられたもので、この幕にも見られるように模様を間違に配するものが多い。この幕に用いられているのは、織幅47センチ、長さ約3メーター、文丈（この製では模様間の長さ）195センチの生地で、織幅の大きさから中国製であることは間違いない。これを4枚並べて縫い合わせ、縫い目の何箇所かに約30センチ幅の風抜きまたは覗き穴と思われる穴を開ける。この部分は縫い目を解き、縫い目と開口部の境には繕し革の緒をつけ、補強を計っている。また上方には幕を吊るための網を通して同色の平掛け紐（現状28個、当初は30個）を緑の燃糸で縫い付ける。

幕は、はじめに仮縫いし、葵紋の位置を決め下書きした上で一旦引き解き、染色したのち再び仕立てたと考えられる。

葵紋は、縫い締め紋りと呼ばれる技法で表されているが、特にこの時代の作品でこの技法を単独、もしくは描絵や階層などと併用したものは、辻が花染めと呼ばれる。模様の染めだし方は、まず生地を麻糸で模様の輪郭にそって細かく縫ったうえで、麻糸を強く引き絞り、更に染め残す部分を竹の皮などで覆い、紫根から抽出した染液に生地浸して地色を紫色に染める。この時、防染された葵紋が白く染め残されることになる。なお、葵紋は

やや卵色を呈しており、紫染め以前に媒染的処理を行ったか、あるいは薄く卵色に下染めした可能性もある。また葵紋の輪郭は緑色で描き起こすような処理がなされているが、こうしたことは桃山時代の辻が花染でしばしば見られることである。

またこの幕では染色後に染抜き取られるべき麻糸がそのまま残っている所もあり、こうしたおおようさも秀吉や家康所用と伝えられる他の辻が花染の作品と共に通する特徴を示している。

(2) 平地に経三枚縁で、紗綾形に2種類の花文を互の目に散らすように表した紗綾を用い、(1)と同様の技法で模様を表している。生地の織幅は約50センチ、織幅・織組織・模様などから中国製と考えられる。幕はこれを染色後4枚並べて縫い合わせる。風抜き穴を設け縄通しの紐を付けるなど、仕立ても(1)と共通する。左方を欠失し、現状では葵紋二つを残すのみであるが、当初は(1)と同じく葵紋五つ、長さも10メーター前後であったと推定される。

なお、以上2張の幕は、生地や技法の特徴から桃山時代17世紀の作と考えられ、本多佐渡守正信の添状の写し（慶長7年〈1602〉）にいう、関ヶ原合戦時使用の陣幕という伝承を否定しない。桃山時代末期の現存染織遺品として貴重である。

## 産泰神社建造物調査

### 本殿

一間社、身倉側面一間、妻入、腰組付縁四方、浜床付、組物二手先、腰組出組、二軒繁垂木、入母屋造、妻虹梁大瓶束、茅葺（現在鉄板包）。和様を基調とする。

羽目板、木鼻および軒支輪等に彫刻多用、彫刻物すべて極彩色。

内部に一間社入母屋造とち葺、素木造の宮殿安置。向拝一間 紅物出三斗、身舎と海老虹梁で繋ぐ。

上棟の棟札 宝暦十三年（1763）

### 幣殿

正面一間側面二間 妻入、正面拝殿に接続背面切妻造 組物出組、中備臺股、二軒繁垂木、鉄板葺。和様を基調とする。

羽目板部彫刻極彩色。

桟唐戸に「嘉永二年」（1849）の落書。

### 拝殿

正面三間、側面二間、縁三方、組物二手先、二軒繁垂木、入母屋造、妻虹梁大瓶束、茅葺（現在鉄板包） 内部虹梁、組物出組、格縫天井。  
向拝一間、組物出三斗、身舎と竈の透彫海老虹梁で繋ぐ。

和様を基調とする。

棟札 文化九年（1812）

### 隨神門

三間一戸八脚門（但し戸は立たない）、組物三手先、二軒繁垂木、入母屋造、正面軒唐破風付、妻虹梁大瓶束、茅葺（現在鉄板包）。  
和様を基調とするが禅宗様の礎盤・柱粧および台輪を用いる。虹梁、木鼻等に彫刻多用。

正面左右に隨神像を安置。

上棟の棟札 天保四年（1833）

### 産泰神社棟札

### 一、本殿棟札

尖頭形、総高53.3cm 肩高52.1cm 上巾12.1cm 下巾10.3cm 厚さ0.9cm 松 保管箇所  
産泰神社社務所

宝暦十三年四月廿三日

神主

泰造立産奉大明神

小糸豈前守

藤原忠安

年五十一才ころ建立

### 二、拝殿棟札

尖頭形、総高53.9cm 肩高51.5cm 上下巾19.7cm 松

（表）

産泰太神宮 神主從五位

奉造替御拝殿成就 藤原恭富

文化九年申八月十三日

（裏）

村中惣産子□ □～勘助

天下泰平產婦安□

□□万蔵

諸願円満感應成就

□ □□弥平二

□□□□

□ □□□□

□□□□

萩原活次郎

右工門

□□□□□

□□□□□

### 三、隨神門棟札

尖頭形、総高48.5cm 上下巾10cm 松 保管場所 中央檜木束東面

五方五黄神 玉姫神 番近棟梁或 山口宗吉

大宮賣女神 白井定吉

泰新造上隨神門成就上棟之所

天保四年三月吉日 神主

鰐登豊前守藤原富房代

（裏面未確認）

四、隨神門標札		岸本庄助	十月吉辰日
特別贊助鯉登幸之助	氏子総代		
随自昭和四十一年一月廿日	須賀秀雄	産泰神社墨書（朱書）	
奉神屋根葺替工事	村上宗平	一、本殿墨書（朱書）	
門区三役斎藤早苗八木原楢萩原和太郎	萩原新作	位置 内部見返し	
至同年二月廿日竣工	鯉登欽助		
	木村宗平	宝曆十四年	
五、金鹿羅宮棟札			四月八日まで
尖頭形、総高45.6cm 肩高44.5cm 上下巾12.7		上州伊与久村	
cm 松 保管場所 産泰神社社務所		同境町	
(表)		妙口 忠七	
玉姫神		嘉七	
五方黄神 大宮賣女神 神主鯉登大内藏正代			
泰新「造上金鹿羅宮御拝殿成就上棟村中安全口			
玉			
文化七 <sup>年</sup> 奉行	藤原泰廣年三十三才		
(裏)			
元氣円満神変加持性命成就神力加持			
一灵感應神通加持			
勺々遁智命 彥狹智命	以我行神力		
豐受媛命手置性口命	神道加持力		
	神変神通力		
元上天寶神、加持			
六、金鹿羅宮奉納棟札（2枚合せ）			
(表)			
奉納棟札			
(2枚目)			
奉納棟札			
信州諏訪郡	信州佐久郡		
上桑原村	望月宿		
棟梁矢崎久右衛門	市藏		
越後國三崎郡	同諏訪郡		
道半村白井定蔵	神戸村 神弥		
信州諏訪郡上桑原村	當国大屋村		
伊藤伴兵衛	木挽		
越後國蒲原郡	猪之助		
角海村	干時文化七 <sup>年</sup>		

### III 新指定物件紹介

#### え ぎ の ほうとう 江木の宝塔



・区分 重要文化財

・記号番号 重第67号

・指定年月日 平成6年4月19日

・所在地 前橋市江木町224-1 共同墓地内

・所有者 勢多郡大胡町堀越甲1392 金蔵院

・管理者 勢多郡大胡町堀越甲1392 金蔵院

(住職 遠藤 榮龍)

・概要

前橋市江木町に所在する宝塔である。安山岩でできており、塔身の下部に小さい欠損があるが完型である。塔身底部は狭く、楕状に近い。また、塔身の頭部上部は中心より2cmほどすりばち型に削っている。屋蓋は上反りに対して、下反りが深い。

造立は南北朝末から室町時代始めの応永期頃と推定されるが、年号などの銘文は刻まれていない。

市指定重要文化財の二宮赤城神社の宝塔などと同じ時期の作品で、完型であり、貴重な石造物である。

この宝塔は、江木町字大日にあったものを現在地に移したものである。

現在地は西方寺という寺院があった場所であったが、江戸時代末の元治元年に焼失し、明治42年3月に金蔵院に合併して現在にいたっている。

・法量

総高 197.5cm

塔身部の高さ 66.0cm

くびれ部の高さ 6.5cm

最大幅 65.0cm

いざみさわ　にんぎょうつけたりこどうぐとういつかつ  
泉沢の人形附小道具等一括



- ・区分 重要有形民俗文化財
- ・記号番号 有民第5号
- ・指定年月日 平成6年4月19日
- ・所在地 前橋市大手町二丁目3-6  
前橋市中央公民館  
前橋市上泉町664-4  
前橋市教育委員会文化財保護課
- ・所有者 前橋市泉沢町自治会
- ・管理者 前橋市教育委員会
- ・概要

泉沢の人形芝居は、明治二十年頃、阿波から上坂角太郎が、四国より人形芝居の小道具を一式そろえて持ってきたことから始まった。

角太郎は、当時「箱廻し」といわれた人形芝居の旅芸人であり、各地を巡業していたが、泉沢に居を定めたものである。竹本理太夫などと連携して村人と、人形遣い10人、女子1人ぐらいで赤城

人形大一座という一座を作り、勢多郡から他郡まで興行してまわった。3人遣いの人形芝居である。

一座の公演は明治末から大正十年ころまで、盛んに演じられていたが、大正大震災を境に跡絶えてしまい、現在12個の頭（男8、女4）と小道具の一部だけになっている。すべて阿波系統の頭で、作者銘は人形富が1と天狗久が11である。銘文の年代は明治三年から明治四十二年である。この中で天狗久は、製作年代から阿波の人形師初代天狗久、人形富は天狗久の師匠である。

頭は、いずれも工芸品としてもすぐれた作品である。小道具も残され、創始と廃絶という歴史がはっきりわかる資料としも貴重である。市内にあつた民俗芸能を記録する貴重な遺品であり、工芸品としても価値が高い。商業演劇で使用するため、頭が大きくなつており演劇史上でも貴重である。

群馬県指定重要文化財

## ●産泰神社

産泰神社本殿幣殿拝殿神門及び境内地4294平方メートル

指定年月日

平成6年3月25日

記号番号

重文第169号

所在の場所

前橋市下大屋町569番地

所在者の氏名及び住所

産泰神社 代表役員 鰐登 茂行

前橋市下大屋町569番地

構造及び形式

本殿 木造 正面1間、側面1間、向拝1間付・

単層入母屋妻入・茅葺

幣殿 木造 正面1間、側面2間、単層切妻・  
鉄板葺（当初は板葺か）

拝殿 木造 正面3間、側面2間、向拝1間付・  
単層入母屋妻入・茅葺

神門 木造 3間1戸八脚・正面軒唐破風付・  
入母屋・茅葺

く金毘羅宮 木造 正面2間、側面1間、向拝  
1間付・入母屋・茅葺>

建造年代

本殿 宝暦十三年（1763）（棟札）

幣殿 18世紀末～19世紀中期頃（推定）

拝殿 文化九年（1812）（棟札）

神門 天保四年（1838）（棟札）

く金毘羅宮 文化七年（1810）（棟札）>

制作者

金毘羅宮は、棟札に信州の棟梁矢嶋久右衛門ほか10名の大工の名と木挽1名の名が記されている。

他の建物については、不明である。

由来及び内容

産泰神社は祭神を木花佐久夜毘売命とする。

「荒砥の産泰さま」と呼ばれ、安産守護の神として広く信仰を集めてきた。「産泰講」は大正年代までかなり盛んで、毎年1月から3月まで多くの代参者が訪れた。明治27年から昭和40年までの祈願者は、関東一円、遠くは北海道や関西にまで及んでいる。

本殿などの主要な建造物は、前橋藩主酒井氏の尊崇が厚かったことから、前橋城を守護して西向きに建てられたという。古くは南向きであり、南参道を用いていた。

本殿は、内部に一間社入母屋造の宮殿を安置し、大床を四方に設け、脇障子を置き、擬宝珠高欄を回らす。屋根は一对の置千木と三本の堅男木をのせ、妻飾は虹梁大瓶束とする。軒は二軒繁垂木で、向拝に一对の手挟をつける。組物は身舎を二手先、腰組を出組、向拝を連三斗二段横上変形としている。柱の金襴巻や長押の文様は極彩色である。虹梁、支輪、壁面、脇障子などには彫刻を施し、外部はかなり装飾化が進んでいる。内部は棹絆天井で外部に比べ簡素な造りである。

壁面（縁下、浜床部分を含む）に嵌めこまれた彫刻、透彫の木鼻などは、柱や壁（羽目板）における彩色の残存状況や風化の程度、仕口の取付け状況からみて、後補のものであると推察する。また、海老虹梁にも改造の痕跡が窺える。なお、身舎柱の床下部分には宝暦十三年の墨書き、身舎内部の見返しには宝暦十四年の朱書きを見ることができる。これらの資料も棟札とともに建造年代を裏付けるものとして重要である。

幣殿は、軒を二軒繁垂木とし、組物は出組で、中備として臺股を用いている。木鼻、板支輪、臺股などに彫刻がある。建造年代を明示する資料を欠くが、彩色や彫刻などの細部の資料からみて、18世紀末から19世紀中期頃の遺構と推察する。

拝殿は、大床を三方に設け、脇障子を置き、擬宝珠高欄を回らす。軒を二軒繁垂木とし、妻飾は虹梁大瓶束である。向拝に二対の手挟を付ける。組物は身舎を二手先、向拝を三斗二段横上とする。

木鼻、水引虹梁上部、手挾、海老虹梁、板支輪、壁面の一部、脇障子などに彫刻を施している。手挾や海老虹梁などは透彫である。拝殿としては装飾化が進んでいるといえる。内部は天井を格縫天井、組物を出組とする。

神門は、素木造で、和様を基調としているが、礎盤、粽、台輪などに禅宗様の細部手法も用いている。軒を二軒繁垂木、妻飾を虹梁大瓶束とする。組物は二手先で、彫刻は木鼻、板支輪、虹梁などに施す。

#### 文化財の価値

本殿、幣殿、拝殿、神門はいずれも18世紀中期から19世紀初期のものであり、四棟が群として残っているのは貴重である。また、幣殿を除く三棟は、現在茅葺を鉄板で覆ってはいるものの、茅葺屋根の圧倒する量感のある外観を呈していることも注目すべきことである。これらの遺構は、いずれも本県の江戸後期の神社建築として質も良く、装飾過程を知る上でも貴重なものといえる。したがつ

て本神社は、本県の神社建築における連棟様式の指標となる遺構である。

また、本神社境内にはこれらの遺構のほかに、金毘羅宮、神楽殿、拝見所などを揃えている。さらに、本殿背面には信仰の対象であった巨石群があり、その中には船石と呼ばれる七福神を安置した巨石、胎内くぐりなどもある。



産泰神社本殿側面図

## IV 文化財保護事業

### 1. 保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するため、平成4年度において、次のような事業を実施いたしました。

#### (1) 国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の関口藤太さんと御供徳雄さんを国有文化財監視人にお願いし日常管理を実施いたしました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

#### (2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが38件、市指定のものが98件あり合計157件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

#### ① 指定区別文化財（6. 4. 19現在）

区分 種別	重 要 文 化 財	史 跡	天 然 紀 念 物	無 形 文 化 財	民 俗 文 化 財	旧 美 術 重 術 要 品	合 計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	33	4	0	0	1	0	38
市指定	66	16	1	7	8	0	98
合 計	102	31	2	7	9	6	157

#### ② 時代区別文化財

指定別 時代別	国 指 定	県 指 定	市 指 定	合 計	
				件 数	割 合 %
天 然	1	0	1	2	1.3
原 始	1	0	0	1	0.6
古 代	14	2	15	31	19.7
中 世	3	19	28	50	31.9
近 世	2	13	34	49	31.2
近 代	0	3	5	8	5.1
民 俗	0	1	15	16	10.2
合 計	21	38	98	157	100

#### (3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバーパートナーチンセンター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物 件 名	区 分	所 在	面 積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484m <sup>2</sup>
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407m <sup>2</sup>
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000m <sup>2</sup>
4	車 橋 門 路	市指定史跡	大手町2-5-3	400m <sup>2</sup>
5	酒井家歴代墓地	市指定史跡	紅葉町2-8-15	3,800m <sup>2</sup>
6	天 神 山 古 墓	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730m <sup>2</sup>
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,081m <sup>2</sup>
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	11,068m <sup>2</sup>
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五料 1501	16,000m <sup>2</sup>
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2516-1 他	12,283m <sup>2</sup>
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	梅林町總社 1587-2	1,793m <sup>2</sup>
12	宝塔山古墳	国指定史跡	總社町總社1606	2,204m <sup>2</sup>
13	女 墓	国指定史跡	東大室町 富司・飯土井町 16,732m <sup>2</sup>	16,732m <sup>2</sup>
計				87,982m <sup>2</sup>

#### (4) 文化財パトロール

市内を5地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に1～2回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上で情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対応することができました。

各地区的文化財保護指導員は、下記の表の通りです。



地 区	氏 名	住 所	電 話
中 央	福島 守次		
総社・元總社	新木一郎治		
広瀬・山王	関根 辰雄		
芳賀・南橋	栗原 秀雄		
城 南	森村伊勢雄		

(平成5年4月1日現在)



#### (5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い天井、大壁造、横箱目地板張など明治時代の代表的洋風建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。



秋元歴史まつり講演会

#### (6) 後 援

##### 秋元歴史まつり

後援、平成5年11月20日～21日

#### (7) 女堀の指定告示

(追加申請分)

平成6年8月15日付で女堀の追加指定が告示になりました。

申請内容は、23集は18頁に掲載してあります。



### 年次計画

## 2. 整備事業

### (1) 総社歴史散歩道整備事業

平成5年度は、平成3年度以来設置している銅板葺きの屋根つき説明板の一層の充実を図った事を始め、次の事業を実施しました。

尚、推定復原図およびコース案内板設置事業は今年度で当初の計画を終了しました。

#### ①総社歴史散歩道推定復原図等設置

( ) 内は設置場所

史跡めぐり案内板 (JR前橋駅)

(総社)二子山古墳復原図説明板

(総社)二子山古墳隣接地

宝塔山古墳復原図(宝塔山古墳北側道路)



#### ②総社歴史散歩道 ガイドブック増刷

6つのモデルコースによって史跡文化財を紹介した小冊子を3200部印刷。

#### ③総社歴史散歩道検討会

学識経験者による会議を1回開催し、散歩道の中核をなす案内休憩施設について協議しました。

#### ④「第4回秋元歴史まつり」への協力（11月17・18日）

(今年度は元総社地区で開催、元総社地区的文化財の紹介、スライド上映等、手作りによる元総社を紹介しましたね。約2000人の参加がありました。)

年度 項目	年次計画		
	昭62～平成4年度	平成5年度	平成6年度以降
資料館	企画・調査、敷地、建物借上、基本構想 基本設計	実施設計 展示設計、展示品建設工事	建設工事 展示工事 展示品作成
案内表示	道路路面プレート等設置 (85基)		文化財表示マーク設置(74基)
散歩マップ・ガイドブック	散歩マップ、 ガイドブック 増補	ガイドブック 増補	散歩マップ ガイドブック 作成増補
推定復原図 説明板設置	図版原稿作成 説明板設置 (9基)	説明板設置 (3基)	
便益施設整備	用地借用	用地借用	用地借用

#### 推定復原図 設置一覧表

平成3年度 (5基)	蛇穴山古墳、山王魔守、総社公民館(総社城下)、虎姫観音堂(前橋城天主閣)、JR群馬総社駅
平成4年度 (4基)	総社神社、宮鍋様(上野国府)、王山古墳 JR新前橋駅
平成5年度 (3基)	(総社)二子山古墳、宝塔山古墳、JR前橋駅

#### (2) 八幡山古墳修復工事

5カ年計画の最終年度として、前橋市朝倉町にある国指定史跡八幡山古墳の墳丘修復工事を、昨年度に引き続き実施しました。修復箇所は、後方部墳頂と東側、更には八幡山公園からの上り口等を中心に、破損の激しい部分に盛り土・植栽(リュウノヒゲ)を施し、墳丘の保護をはかりました。



#### (3) 天川二子山古墳補修工事

前橋市文京町にある国指定史跡天川二子山古墳が風雨等により損傷が目立ち、地域住民からも要望が強いことから、緑化ムシロ等を敷設、応急処

置を行いました。

#### (4) 標柱、説明板、案内板設置工事

平成5年度は、次に挙げる指定文化財史跡の標柱等の設置を実施しました。昨年度に引き続き標柱には御影石、説明板にはステンレス板を用い、耐久性を高めるよう工夫しました。

※説明板の新設……………2基

①前橋高等学校のラクウショウ文化財案内板（前橋高等学校）

②観昌寺の宝塔（観昌寺）

※標柱の新設……………5基

①日輪寺十一面觀音像……県指定重要文化財

寛永の絵馬…市指定重要文化財（日輪寺）

②光巖寺薬医門…市指定重要文化財（光巖寺）

③前橋高等学校のラクウショウ…市指定天然記念物（前橋高等学校）

④観昌寺の宝塔…市指定重要文化財（観昌寺）

⑤無量寿寺十一面觀音立像…市指定重要文化財

地蔵菩薩立像……市指定重要文化財



#### (5) 史跡境界杭設置工事

平成5年度は、国指定史跡女堀及び中二子古墳の境界杭位置を復元しました。

### 3. 普及事業

#### (1) 第19回前橋市文化財展

・日 時 平成5年7月24日(土)～8月15日(日)

・会 場 前橋市立図書館

・テーマ 『芳賀地域のうずもれた文化財』

5年度の文化財展は、芳賀地区自治会連合会をはじめ地元の関係団体の全面的な協力のもと、芳賀地域のうずもれた文化財を紹介しました。

同地域には、古代から現代まで、ほほどの時代も展示可能な資料があり、それぞれの時代を生きた人々のくらしの様子や願いを視点に資料を収集して展示し好評を博しました。

また、地元の積極的な協力により、同地域の文化財資料（特に近・現代）のリスト作りができました。



#### (2) 文化財めぐりパンフレット増刷

史跡めぐりに役立つパンフレットを市民の皆さんに無償で配布しておりますが、今年度も大いに活用いただき残部少なくなったため、昨年度までのパンフレットに新しく指定となった文化財の場所や説明をいれ、特に好評を博している総社・元総社コース、城南地区、広瀬・朝倉コースを増刷しました。

#### (3) 第6回文化財愛護作品コンクール

文化財愛護の気持ちを育むために、文化財愛護作品コンクール（絵画と標語）と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施しています。今年度はコンクールの年として、市内の小中学校の皆さんから1,044点もの応募を

いただきました。

どの作品も力作ぞろいでしたが、専門の審査員による慎重な審査の結果、下記のように作品が選ばれました。これらの優秀作品を冊子（優秀作品集）にまとめ、学校をはじめ関係各機関に配布しました。

なお、市役所12階市民ロビーにて文化財愛護優秀作品展を実施いたしました。

期間 平成5年12月1日～12月10日



#### 標語の部

市長賞 野上 幸則 第三中3年

「古人の思い 僕らが学び僕らが守る」

教育長賞 調訪 通久 永明小6年

〃 小柏 奈保 第三中3年

優秀賞 斎藤 大地 細井小5年

〃 高坂 貴子 桂董中2年

#### 絵画の部

市長賞 諸田 祐希 芳賀小6年

教育長賞 福田はるひ 元総社北小6年

〃 田島 優一 第々中3年

優秀賞 倉賀野英樹 芳賀小6年

〃 三浦 尚久 広瀬中3年

#### (4) 第21回前橋市郷土芸能大会

・日 時 平成5年11月6日(日)

午後2時～4時半

・会 場 前橋市民文化会館 小ホール

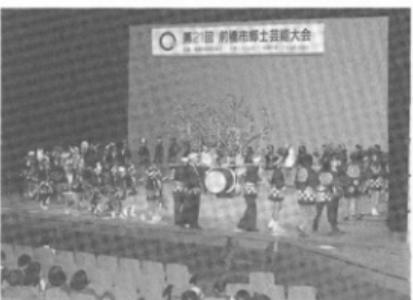
本年度も、市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く市民に公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に、前橋市郷土芸能大会が開

かれました。今大会を機に10年ぶりに再現された田植唄保存会をはじめ6団体が、日頃の練習の成果を発揮し、すばらしい演技・演奏で観衆を魅了しました。

なお、事前の広報・宣伝活動を活発に行ったためもあり、大勢の市民がつめかけました。

#### ○出演団体

- ・田植唄 保存会 (中内町)
- ・大友の百万遍念仏 保存会 (大友町)
- ・總社山王の鳥追い 自治会 (總社町山王)
- ・立石の獅子舞 保存会 (總社町立石)
- ・片貝神社太々神楽 保存会 (東西片貝町)
- ・山王子供八木節 子供育成会 (總社町山王)



#### (5) 教材開発事業

学校教育、社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを作成しました。

内容は市制百周年を経た前橋市にちなみ「前橋百年のあゆみ」(戦後を中心に)をテーマとして、昨年度作成したものと合わせ、合計40コマを1セットとしスライド化しました。

#### (6) 第12回文化財普及講座

本年度は、現在市民の关心の高い大室三二子古墳を中心として、「古墳時代の前橋」をテーマに古墳時代の変遷・特徴、さらに実際に発掘調査を担当した職員からの成果等について平易に解説していただきました。現地見学では、あいにくの悪天候にもかかわらず参加した多くの熱心な受講者の要望に応え、大室三二子古墳に加え広瀬・朝倉の古墳群も見学しました。

10月30日 市立図書館 「古墳のまち前橋」

松島 栄治さん

11月4日 市民文化会館

第21回前橋市郷土芸能大会鑑賞

11月20日 現地見学 「バスで巡る荒砥地域の

古墳（大室三二子古墳を中心に）」

11月27日 市立図書館 「発掘現場から見た大室  
古墳群）

前原 豊さん



#### (7) 史跡・文化財めぐり

本年度も30団体1,500人もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。小学生の社会見学や老人会や自治会主催の史跡めぐり、町村の史跡めぐりで前橋のすばらしさを理解していただきました。

#### (8) 各種講座への講師派遣

地区公民館で主催する「生涯学習」などの文化財講座に講師として依頼され、地域の文化財を紹介するなど普及活動に努めました。

#### (9) 文化財防火デー

昭和21年1月26日に、奈良法隆寺の金堂壁画が焼失したことをきっかけに毎年実施されている文化財防火デーは、本年度で40回目を迎みました。

今回も前橋市消防本部と協力して、保存整備事業の終了した上泉郷蔵での訓練や以下の指定文化財所在地での査察を行いました。

・火災防御訓練

上泉郷蔵（前橋市上泉町）

・防火査察

前橋市蚕糸記念館、臨江閣本館・別館、旧アメリカンボート宣教師館、妙安寺、神明宮、円満寺、

慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、小河原武吉宅、日輪寺、善勝寺、上野総社神社、光巖寺、徳藏寺、大徳寺

#### (10) 文化財資料の貸し出し

文化財資料の貸し出しは、1年間で34件、総数150点にも及びました。主なものは次のとおりでした。

・後二子古墳出土形象埴輪 県立歴史博物館へ

・前橋紙團祭礼絵巻ネガ 土浦市立博物館へ

・頭無遺跡出土石器 岩宿文化資料館へ

・奈良三彩小壺ネガ 県文化振興会へ

#### (11) 文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存のために活動している次の文化財保存団体に、本年度も補助金の助成を行いました。

・総社地区史跡愛好会

・荒砥史談会

・前橋市郷土芸能連絡協議会

#### (12) その他

・野良犬獅子舞保存会の『ふるさとぐんま民俗芸能大会』出演

この大会は、群馬県人口200万人到達を記念したもので、県内各市町村から推薦選抜された10団体が出演しました。

人形淨瑠璃・古武道などに加え、上記保存会が前橋市の代表として出演し、絶賛をあびました。

期 日 平成6年1月16日(日)

会 場 前橋市民文化会館 小ホール





これは、平成5年9月1日付の広報まえばしの表紙にのった「前橋十景」の言葉を解説したものです。

#### 4. 調 査

##### 前橋十景の寄せ歌

○岩神奇巖  
以徒より可  
かく有り介ん  
岩神迺むら尔  
いつ可ふ  
久し支大岩

徒老

○敷島帰雁  
も能いぬ  
桃酒花さく  
敷し澗の  
鳴天 川原乎  
帰る雁可年

方教

○刀根双橋  
可多爾懸たる  
豈年能長橋ハ  
昔よりこ曾  
きしもわ多  
良祢

利房

##### ○八幡雪

玉垣の内外尔  
今さハ  
降敷て  
光尔  
添ふる  
雪の白ゆふ  
乃り子

##### ○是字寺晩鐘

むら可ら須  
可属る年  
くら道杉  
むら尔  
書く下  
ミ天良の  
入安ひの可年

章

##### ○神明社夜雨

風乎能ニやと須  
い可幾の  
松可衣尔  
今宵ハ雨の  
音を聞哉

好季

○丹山秋月  
安ふ幾三れハ

心乃雲も  
すニわ多る  
二子能山の  
秋の月の  
聞 植

○臨江閣晚涼  
水の上に庭造りせる  
古々ちして

いた尔かよふ  
刀祢の夕可せ  
裏彦

○公園櫻花  
花曾能ゝ者那  
咲く路ハ春風も  
心し安可い  
ここ路して  
ふ希

元子

○渓水園聴蟲  
年越屬天

啼さし我者と  
し季島尔  
よ可暮ぬさ起  
松虫

のな九  
素彦

## 5. 埋蔵文化財発掘調査事業

本年度の調査をふりかえって

平成5年度は60件の埋蔵文化財調査を実施した。その内訳は発掘調査9件、試掘調査23件、表面調査14件であった。（別表参照）

調査原因は工業団地造成、区画整理事業など公共・民間の開発に伴うものがほとんどであったが、唯一史跡整備事業に伴うものとして、昨年度の前二子古墳に引き続いだ行なわれた中二子古墳の範囲確認調査が挙げられる。今年度は古墳の西半分だけの調査であったが、大室公園史跡整備のための基礎資料を得るという当初の目的を十分達成した。なかでも、人面付き円筒埴輪の検出や埴輪の産地特定に関する研究などは特筆されるべきものであろう。

区画整備に伴う大屋敷遺跡（総社町）の発掘調査では、観音山古墳出土のものに酷似する台付き長頸壺が住居址内から出土するなど、開発に伴う発掘調査でも数々の成果が報告されている。

元総社明神遺跡の発掘調査は過去11年間直営で行ってきたが、今年度から民間の調査機関に委託することになった。これを含め、今年度の委託調査は2件であった。

開発に先立つ試掘調査については平成3年度から国、県の補助金を含めて公費で実施している。ちなみに、本年度の補助金対応の試掘は18件であり、このうち4カ所で遺跡が発見された。

整理事業としては、芳賀団地遺跡群（昭和48～

55年度発掘調査）の整理事業と中原遺跡群II（平成4年度発掘調査委託）が挙げられるが、今年度実施した各発掘調査についても、現地調査の後、報告書刊行に向けて引き続き整理作業を実施した。

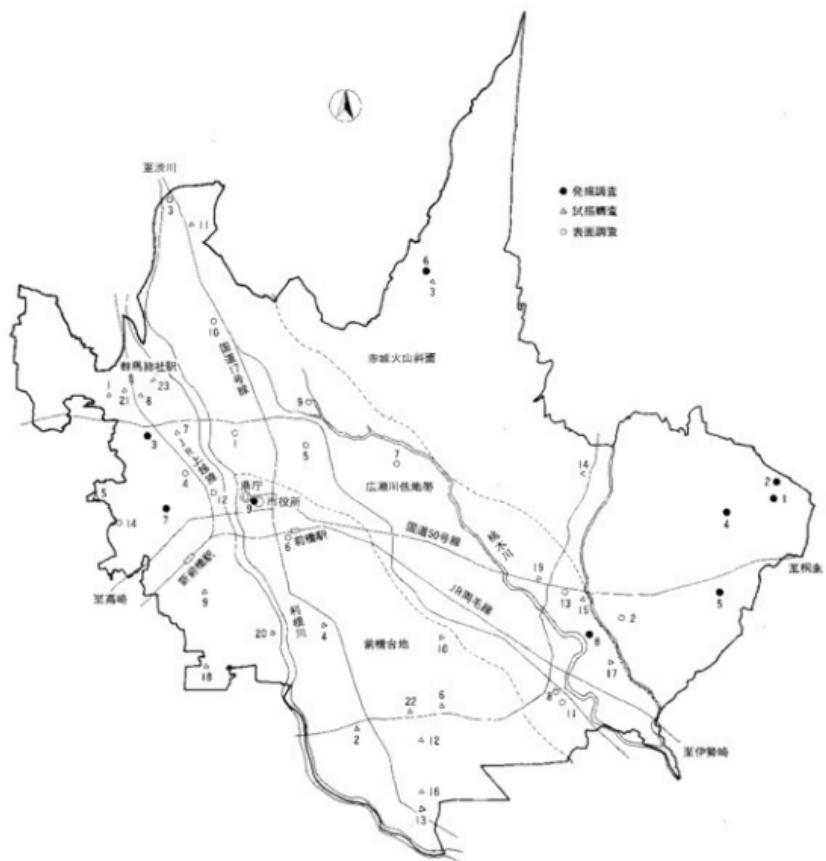
これらのかか、表面調査や試掘調査で遺跡の存在が明確ではないが疑わしい場合には、掘削時に立ち会いを行ってきた。

以上のとおり、本年度も市内各地の埋蔵文化財発掘調査から、古代史を解明するうえで貴重な資料を多数収集することができた。各遺跡の調査概要について次に述べる。



平成5年度表面調査一覧表

番号	地 備	調査面積 <sup>a</sup>	調査原因	調査年月日	調査課	備 考
1	岩神町3-799	8,528	市施設建設	H5. 4. 5	無	
2	二之宮町地内	33	防火水槽建設	H5. 4. 19	無	揮剤時立ち合い実施
3	田口町1368-1外	2,226	浄水場施設	H5. 4. 22	無	
4	大友町2-23-10	752	店舗建設	H5. 4. 28	無	揮剤時立ち合い
5	吉吉町3-65	803	教会建設	H5. 6. 8	無	
6	南町3-68-1	514	事務所建設	H5. 7. 8	無	
7	西片貝町1-326-1	2,204	ガソリンスタンド建設	H5. 7. 12	無	
8	駒形町49-258外	1,711	工場建設	H5. 8. 20	無	
9	北行田町682-2外	1,068	店舗建設	H5. 11. 18	無	
10	荒牧町字下宿346外	1,464	事務所建設	H6. 1. 28	無	
11	駒形町地内	657,319	区画整理	H6. 2. 10	無	
12	大友町2-4-2外	368	診療所建設	H6. 2. 15	無	揮剤時立ち合い
13	芦井町481-1外	2,195	バターゴルフ場建設	H6. 3. 14	有	揮剤時立ち合い実施
14	元郷社即季労勤195-3外	21,450	未定(宅地造成予定)	H6. 3. 19	有	部分的に試掘が必要



平成5年度試掘調査一覧表

番号	地 番	調査面積m <sup>2</sup>	調 査 原 因	調 査 年 月 日	結果	備 考
1	高井町1-30-1外	1,837	事務所建設	H5. 5. 11	無	補助金
2	高里町379-1外	330	店舗建設	H5. 5. 13	無	
3	高田字十二原1546-3外	1,714	産廃中間処理場建設	H5. 6. 2	有	補助金 保存
4	上作鳥町460	518	短大校舎建築	H5. 6. 28	無	
5	元絹社町李西川11506外	3,000	土地改良	H5. 7. 20	有	補助金 保存協議中
6	西善町640外	9,831	倉庫建設	H5. 8. 5-6	無	補助金
7	鶴社町2-5-1	1,445	計画棲定所建設	H5. 8. 9	無	
8	鶴社町植野372-1	996	アパート建設	H5. 8. 12	有	補助金 保存
9	高田町字古市場361-8	1,257	銀行建設	H5. 9. 2	無	補助金
10	高斯町2-20	35,500	市営住宅建設	H5. 9. 10	無	廻削時の立ち合いを継続
11	田口町585-1	445	個人住宅建設	H5. 9. 29	無	補助金
12	宮地町地内	40,000	学校建設	H5. 10. 7	無	補助金
13	下岡内92-1外	10,754	道路改良工事	H5. 11. 4-5	無	補助金
14	高田町1180-1外	5,369	特別養護老人ホーム	H5. 11. 10	無	補助金
15	芦井町今井町地内	1,435	道路改良工事	H5. 11. 15	無	補助金
16	下岡内町1-2外	10,674	道路改良工事	H5. 11. 25-26	無	補助金
17	上増田町1052	662	消防施設建設	H5. 11. 30	無	補助金
18	川由町字柳橋153-1外	14,308	学校建設	H5. 12. 9-10	有	補助金 開拓調査
19	小島田町177-1	2,493	ガソリンスタンド建設	H5. 12. 15	無	補助金
20	上新田町字電電1038-1外	2,356	宅地造成	H6. 2. 9	無	補助金
21	高井町1-22-11外	4,667	店舗建設	H6. 3. 10	無	補助金
22	下佐用町68-1外	17,756	倉庫建設	H6. 3. 15-16	無	補助金
23	鶴社町植野字立石906外	2,587	産業廃棄物最終処分場	H6. 3. 24	無	

平成5年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	遺跡コード	地 番	調査面積m <sup>2</sup>	調 査 原 因	調 査 年 月 日	備 考
1	中二子古墳		西大室町2627-4外	816	史跡整備	H5. 8. 17~10. 30	範囲確認調査
2	内堀遺跡群	5E11	西大室町2525-1外	3,130	公園建設	H5. 4. 26~8. 10	
3	大屋敷遺跡	5A60	鶴町福寺1948-1外	2,386	区画整理	H5. 4. 23~11. 1	
4	地田栗川遺跡	5E29	西大室町1454-4外	5,600	市道拡幅	H5. 5. 10~9. 30	
5	中並木遺跡	5E30	飯土井町112	123	水路改良	H5. 10. 13~19	
6	横瀬遺跡	5C9	鶴町字城原601-2外	39	個人住宅建設	H5. 11. 8~16	
7	元絹社明神遺跡	5A61	元絹社町2424外	602	区画整理	H5. 9. 10~10. 30	
8	中原遺跡群(3)	5F3	上増田町457外	12,295	工業団地造成	H5. 12. 7~6. 3. 15	
9	前橋市水曲輪門遺跡	4H13	大手町2丁目地先	125	水路改修	H5. 4. 19~30	
10	芳賀四地遺跡群						整理作業のみ
11	中原遺跡群(2)	4F3					整理作業のみ

平成5年度埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備 考
2	内堀遺跡群VI	内堀遺跡群	前橋市教育委員会	6. 3. 31	本年度調査
3	芳賀四地遺跡群 第5巻	芳賀北側四地遺跡I	#	6. 3. 31	昭和48~55年度調査
4	市内遺跡発掘調査報告書	奥申塚遺跡、鶴城遺跡外	#	6. 3. 29	本年度調査
5	元絹社明神遺跡	元絹社明神遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	6. 3. 20	# 委託
6	大屋敷遺跡II	大屋敷遺跡	#	6. 3. 25	# 委託
7	地田栗川遺跡	地田栗川遺跡	#	6. 3. 25	#
8	中原遺跡群II	中原遺跡群	#	5. 3. 28	# 委託
9	中並木遺跡	中並木遺跡	#	6. 1. 27	#

## 1. 中二子古墳



事業名 大室公園史跡整備事業  
所在地 前橋市西大室町2627-4ほか  
調査期間 5年8月17日~5年10月30日  
担当者 前原 豊・閑口 孝・戸所慎策

調査面積 816.2m<sup>2</sup> (範囲確認調査)

調査の経緯 本市では、大室三二子古墳が所在する大室地区に約37haの総合公園建設を計画した。公園用地内には史跡が存在するため、史跡整備が不可欠となり、「史跡整備基本構想」が策定された。今回の範囲確認調査はこの構想に基づき、史跡の保護・活用・研究面の資料を収集し、史跡整備の基礎資料を得ることを目的としている。なお、調査は一昨年度の後二子古墳に引き続き実施したもので、大室公園史跡整備事業の第3次年にあたる。

立地 市の東端、赤城山南麓の丘陵性台地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。公園内には、大室三二子古墳のほか古墳時代の豪族葬跡の梅木遺跡も存在し、家形埴輪で知られる赤堀茶臼山古墳も存在する。

調査成果 調査の結果、古墳は6世紀初頭頃に降下した榛名山の火山灰層の上

に造られ、墳丘の周囲に外堀・中堤・内堀を持つ2段築成の前方後円墳であることが判明した。蓋石は中堤の内側、下段墳丘斜面、上段墳丘斜面に取り巻いている。馬蹄形の周囲施設に囲まれた墳丘は、主軸を西東（N-89°-E）にとり、中堤の内外・平坦面・墳頂部には埴輪列を有し、中堤の外側には約2m間隔で唐持ち人形埴輪が巡らされていたと推定される。さらに円筒埴輪列からは人面付きの円筒埴輪1個体が出土した。

古墳の大きさは外堀で計測した場合、全長175mである。墳丘での規模は、全長104m・前方部幅75m・高さ14mである。

石室は地下レーダー探査の結果、後円部の南に存在することが確認され、横穴式石室と推定される。

遺物は普通円筒埴輪、朝顔形埴輪、唐持ち人形埴輪が出土した。埴輪は、形態・調整・胎土等から数種類に分類でき、多野・藤岡方面で生産され搬入された可能性が高い埴輪が多数存在する。

古墳の築造時期は6世紀前半と推定される。



## 2. 内堀遺跡群

(下純引II遺跡)



事業名 大室公園整備事業（公園緑地課）

所在地 前橋市西大室町2525-1ほか  
調査期間 5年4月26日~5年8月10日  
担当者 閑口 孝・前原 豊・戸所慎策

調査面積 3.130m<sup>2</sup>

調査の経緯 公園整備事業に先立ち、公園予定地内の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料と記録保存を目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年に始まり、今年度で7年目になる。

立地 前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。周辺には大室三二子古墳はじめ、上純引遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

旧石器時代 検出されず。

縄文時代 集石1基と埋設土器1個を検出した。集石は8個の拳大の粗粒安山岩を用いており、加熱による赤化がみられた。埋設土器は縄文時代後期（堀之内II式土器）の印口土器を復原。このほかに、遺物は少ないが縄文時代早期から後期までの遺物包含層を検出した。

弥生・古墳時代 弥生～古墳時代初頭の住居址35軒、後期の住居址7軒、竪穴状遺構2基、溝状遺構17条を検出した。弥生～古墳時代初頭の住居は前年度までの調査と合わせると99軒を数える。遺物は、赤井戸式・樽式系土器を主体とし、石田川式土器は少ない。

古墳時代後期の住居は8軒を数える。遺物は鬼高式土器であり、前二子古墳の構築時期とほぼ重複することから、前二子古墳の築造にかかわった人々の集落と考えられる。

平安時代 住居址2軒を検出した。また、平安時代以降と考えられる溝状遺構10条を検出した。

中世 平成2年度調査のW-9と接続すると考えられる溝4条を検出した。薬研堀りで、台形であると考えられ、自立農民層の館跡と推定される。

土坑は20基検出した。古墳時代2基、平安時代後期から中世1基、中世以降13基、不明4基で、時代を特定できる遺物が少なかった。

井戸を1基検出したが、時代を特定することはできなかった。



### 3. 大屋敷遺跡II



事業名 前橋市大屋敷地区土地区画整理事業（施工者 前橋市大屋敷地区土地区画整理組合）

所在地 前橋市総社町総社1946-1ほか

調査期間 5年4月23日～11月1日

担当者 大山知久・真塙欣一

調査面積 2,386m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成4年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第2年次を迎えた。

立地 前橋市街地の北西約3kmに位置する。標高山東南麓に広がる相馬ヶ原原状地の端の前橋台地の縁辺である。本遺跡地は、西から南を八幡川、東を天狗岩用水に囲まれた台地に立地し、総社古墳群の南側、推定国府域の北側、山王庵寺の東側にあたる。

縄文時代 遺物包含層より、縄文時代中期の土器、石器を検出した。土器は加曾利E式土器が多く、わずかに阿玉台式土器も出土している。

弥生時代 なし。

古墳時代 古墳時代後半の住居址44軒、溝址1条、井戸址1基、土坑3基を検出した。6世紀前半の祭祀に係わりの深い

住居址からは石製横造品（勾玉・刀子・鏡・臼玉等）や土師器高杯が多数出土した。石製横造品の石材は、滑石より頁岩が多く用いられている特徴を示す。同時期の近隣の住居址では、須恵器大型器皿も出土している。また、6世紀後半の住居址からは須恵器台付長頸壺も出土した。この台付長頸壺は、高崎市総社町山古墳石室より出土した有蓋台付壺と極めて類似している。

奈良・平安時代 住居址33軒、溝址2条、井戸址2基、落ち込み1基を検出。住居址の遺物には、土器器の壺や罐等の他に須恵器の壺・高台壺・羽釜等も多くみられた。また、山王庵寺系の瓦も出土した。

中世 溝址1条を検出。溝底からは内耳環、カフラケ、石臼等が出土した。

その他 幅6mの道路部分の調査のため、出土遺物が少なく時期不明の遺構も検出された。その数は、住居址6軒、溝址1条、土坑1基である。また、本遺跡地は古墳時代後期から平安時代までの住居址が複雑に重複して検出され、合計で103軒におよんだ。



### 4. 地田栗III遺跡



事業名 市道246号線改良工事

所在地 前橋市西大室町1454-4外

調査期間 平成5年5月10日～9月30日

担当者 狩野吉弘・新井真典

調査面積 5,600m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成5年3月16・17日、上記工事予定地を土木課の依頼で試掘調査をしたところ、古墳時代の住居址等が検出された。そこで土木課と協議・調整を行った結果、工事が回避できないこと等から工事に先立つ埋蔵文化財記録保存のための発掘調査を実施することが確認された。調査は前橋市埋蔵文化財辨査調査団が直管で行うこととし、4月27日発掘調査委託契約が締結された。

立地 本遺跡は地田栗の集落を中心とした113m前後の台地上から神沢川の形成した106m前後の低地にかかる緩やかな斜面上に位置している。周囲は平成元年に荒砥北部圃場整備事業が行われたため、田畠は整然と区画され、ほぼ平坦な地形を呈している。

古墳時代 6世紀後半の円墳2基（M-1号墳、M-2号墳）および調査区外のため周囲のみの調査となった円墳（M-3号墳）の合計3基の古墳が検出され

た。規模は周囲を含む全長がM-1で約28m、M-2では約18mを測る。調査では両古墳の填土斜面から周囲にかけて崩落した埴輪片が多数出土したが、墳頂部と主体部は両古墳ともすでに擾乱を受けている。住居址は石田川式土器を伴う住居址が4軒、鬼高式土器を伴う住居址が3軒検出された。

奈良・平安時代 住居址9軒を検出した。H-5号住居址から縄繩高台壺が、H-8号住居址からは瓦塔（軒の部分）が出土した。

江戸時代 3条の溝址（W-5～W-7）を中心により1,000点あまりの遺物が出土した。主な遺物は、碗、皿、猪口、灯明皿、壺、火鉢、香炉、土鍋、焼塩、硯、砥石、石臼などである。うち650点余りを占める陶磁器は肥前系磁器と瀬戸・美濃系陶器に大別され、他に唐・明系陶器がわずかに見受けられる。所産時期は18～19世紀前半代のものが大部分を占める。



## 5. 中並木遺跡



事業名 城南工業団地（前橋工業団地造成組合が造成）再拡張事業  
所在地 前橋市飯塚井町112番地  
調査期間 平成5年10月1日～19日  
担当者 園部守央・井野誠一  
調査面積 123m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成5年6月～8月に造成予定地177,000m<sup>2</sup>全域にわたって試掘調査を行った。その結果遺構が確認された部分について同年10月に発掘調査を実施した。

立地 中並木遺跡は国道50号線二之宮十字路から東に600m、南に600mに位置し、飯塚井沼の東側にある。調査地周辺は昭和50年代に群馬県によって圃場整備が、また前橋工業団地造成組合により工業団地の造成が行われ、現在は標高約94.3mで平坦に整備された田畠と工場群が広がっている。

上記開発に先立って周辺遺跡が次々に調査され、中世の農業用水址「女堀」をはじめ旧石器時代から平安時代までの遺構が検出された。

調査地一帯の旧地形は、団地拡張部分の北西部から南東部にかけて低地が走り、その西側は低い台地状になっていたと思

われる。圃場整備では高い部分の土で低地を埋める形で整地したため、当時残存していた遺構が相当削り取られたようである。

調査結果 地表下約40mでソフトローム層（平均20m）となり、さらにハードローム層と続く。

今回の調査で検出した遺構は和泉式土器を伴う住居址3軒であった。いずれもソフトローム内に残っており、床面も柔らかく締め固められた状態ではなかったが、3軒とも柱穴4個と炉址1基を伴っていた。住居址は過去の圃場整備での整地によって上部を相当削り取られたため、調査は下部に限られたが（残存壁高7～36cm）、和泉式の土器が床面直上から多數出土した。事前の踏査では、全体の30%程度にわたって土器片の散布を確認したが、試掘では本調査地以外では遺構が確認されなかつた。また、地層の状況は、低地を埋めた部分と本調査地を除き、耕作土の下にソフトロームがほとんど認められないことも圃場整備によって土が動いたためと考えるのが妥当であり、圃場整備前には他にも遺構が存在していたものと思われる。



## 6. 瀬城遺跡



事業名 民間開発（個人住宅建築）  
所在地 横町字城岸601-2外  
調査期間 平成5年11月8日～11月16日  
担当者 伊藤 良・園部守央  
調査面積 39m<sup>2</sup>

調査の経緯 本発掘調査は、土地所有者である田中正美氏の個人住宅建築に伴う危険防止のための地盤除去工事に先立つて行われたものである。この調査は、平成5年7月26日に田中氏より「瀬城遺跡」地内における土木工事等に関する埋蔵文化財の取り扱いについて相談を受けて以来協議調整を重ねた結果、前橋市教育委員会監督で実施するに至った。

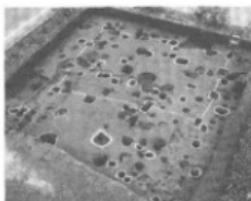
立地 室町・戦国時代の並郭式築城様式を残す丘城である瀬城遺跡は、前橋市の中心市街地から北東約7kmの赤城火山斜面上に位置し、西は藤沢川、東は現在は小流だが谷地状になっている舌状台地の先端部にある。

調査概要 土木工事等による掘削範囲が、山崎一氏の説の北第二郭の南の壕と北第二郭東側の平坦部分、北第二郭の東の壕、さらに東側の帯郭と北第三郭の東側の南の壕に及ぶため、調査実施にあたってはまず掘削範囲内及びその周辺を含め

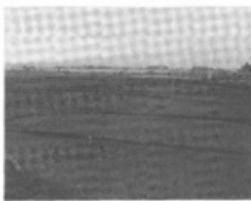
た約1,000mの部分の現況測量を実施した。発掘調査は、調査対象箇所の現状が崖の上の際であるため崩壊防止や調査の安全確保の面から掘削範囲内を中心に壕の深さと幅・形状等について調査するためのトレンチを3本設定したトレンチ調査とした。1トレンチは北第二郭の南の壕から北第二郭東側縁きわの平坦部分に入れたトレンチで、壕の底まで検出できなかったが、トレンチ内で確認できた壕の最深部は北第二郭の南きわ平坦部分の横出面から5.5mに及んだ。2トレンチは北第二郭と東側の帯郭間の壕の部分に入れたトレンチで、壕の幅12m・深さ5.7m・下幅が0.24mと狭くV字状に立ち上がる薬研堀状に掘り込んで造られていた。3トレンチは東側の帯郭と北第三郭間の壕の部分に入れたトレンチで、壕の深さ3.2m・下幅が0.74mでV字状に立ち上がる薬研堀状に掘り込んで造られていた。なお、本遺跡に関係する遺物として1トレンチ平坦部より鉄斧1点・瓦器片3点が出土した。



## 7. 元総社明神遺跡 XII



## 8. 中原遺跡群 III



**業務名** 前橋都市計画事業元総社（西部第三明神）地区土地区画整理事業（施行者 前橋市 代表者 藤嶋清多）

**所在地** 前橋市元総社町2424番地ほか  
**調査期間** 平成5年9月11日～6年3月20日

**担当者** 大山知久（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、新保一美（スナガ環境測設株式会社）

**調査面積** 602m<sup>2</sup>

**調査の経緯** 西部第三明神地区土地区画整理事業（認可昭和57年6月）の実施に伴い、事業区画が「推定上野国府」域内である重要性を認みて、施行者と市教委で協議・調整のうえ57年以来発掘調査を進めているものである。第12次調査については、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立合指導のもとに、受託者・スナガ環境測設株式会社が実施した。

**立地** 市役所・県庁などの所在する市街地より西へ約2km、桜名山東南麓に広がる相馬が原廢帝跡地が、前横台地に移行する利根川右岸に位置している。上野国の古代政治の中心である上野国府が置かれて、平安中期には上野国中の神社を勅請

した親社神社（明神）が、調査地33トレントチの北西100m程にあり、また、南100m程の元総社小学校前面に32トレントチがあり、何れも牛池川右岸にある。βトレントチは総社神社から北へ300m程の牛池川の右岸にある。近年、上野国府推定地を裏付ける墨書き器などが発見されている。周辺には、総社古墳群・国分尼寺・王山廐寺・薬海城址・八日市城址など古墳時代から中世・近世初頭に及ぶ政治・文化の中枢地域であったことを窺わせる。

**縄文時代** なし、  
**弥生時代** なし、  
**古墳時代** 整穴住居址 7軒、うち長輪5.5m×短輪5.3mを測り、滑石製模造品を伴出の大型住居址を検出。（33トレントチ）

**奈良・平安時代** 整穴住居址 7軒を検出、うち5軒は33トレントチにあり、盤・磚・瓶などが出土しているが、甚しく壊乱され、住居址プランに不明な部分が多い。遺物は、暗文入りの灯明具・灯明皿など10点余りを検出している。βトレントチからは、100余りの土坑群と角柱穴の掘立柱建物址1軒を確認。角柱穴から縄輪高台桿の破片を検出している。

**時代不明** 33トレントチから上幅3.4m、下幅1.1m、深1.8mの溝を検出している。

**業務名** 上増田工業団地造成事業（前橋工業団地造成組合）

**所在地** 前橋市上増田町・箕井町地内  
**調査期間** 平成5年12月7日～平成6年3月15日

**担当者** 地部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、萩野博己（スナガ環境測設株式会社）

**調査面積** 12,295m<sup>2</sup>

**調査の経緯** 前橋工業団地造成組合・市教委で協議・調整のうえ、平成3年度試掘調査（委託実施・平成3年12月12日～平成4年3月16日、受託者・スナガ環境測設株式会社）の結果を経て、調査主体・前橋市埋蔵文化財発掘調査団のもとで中原遺跡群Ⅰ（調査団直管）、Ⅱ（民間委託）に継続して、Ⅲを前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立ち合い指導のもとに、スナガ環境測設（株）が工場敷地の調査を実施した。

**立地** 市役所・県庁などの所在する市街地の東南東約9kmに位置し、東に荒砥川、西に桃ノ木川が南流する埋地内にあり、かつての旧利根川流路の広瀬川低地帯にある。北に赤城山南麓が広がる。標高80m前後で北から南に緩やかに傾斜す

る地形である。

**概要** 第1回調査 818（弘仁9）年7月、関東地方を襲った大地震の赤城山南麓の山崩れに起因する洪水堆積物で埋没した平安時代の水田址92面、それに伴う磧群・水口6箇所と多数の足跡や東西・南北方向に伸びる大畦畔の一部を検出した。

また、水田面を覆った洪水堆積物層や水田面・畦畔を切っている溝状遺構2か所を検出している。遺物は、畦畔上に埋まつた安山岩質の石や水田面により土器類などを検出した。

第2回調査 調査区全域に遺構確認のトレントチ4本を入れ、調査区南部から古墳時代の遺物片を数点検出。古墳時代の住居址1軒を検出している。住居址は粘土を使用したカマドを持ち、床面には柱穴が3か所検出されている。遺物も古墳時代中期の土器類・高杯などを検出した。

他に、中世の五輪塔（空風輪）1点、土地改良事業前まで使用された水路の石積（積み）などを検出している。

## 9. 前橋城水曲輪門遺跡



事業名 河川改修事業  
所在地 前橋市大手町二丁目地先  
調査期間 平成5年4月19日～30日  
担当者 井野誠一・伊藤良（前橋市教育委員会文化財保護課）  
調査面積 124.8m<sup>2</sup>

調査の経緯 本遺跡は前橋城水曲輪門の所在地にある。現状は水路・道路・学校用地等になっているが、旧地籍図に半円形の門跡が示されている。

平成4年11月27日に遺跡地周辺についての土木工事の連絡をうける。旧河川の改修であり、新たに掘削の予定はないが、工事施工に伴い水曲輪門に係わる資料を得られることが考えられたため、調査を実施することになった。

平成5年3月18日付で調査依頼が提出され、工事施工にあわせて調査を実施することになった。調査は平成5年4月19日～30日の間でのべ4日間を要して実施された。

立地 本遺跡は慶応3年（1867年）に再築された前橋城南側の水曲輪門にあたる。再築前橋城は西洋式築城法が一部とり入れられており、水曲輪門も、門の外に半円形の曲輪をもつ。この門の跡は戦

後の区画整理でその跡は失なわれてしまつたが、河川の掘削面にその跡が認められることが考えられた。

遺構及び遺物 調査の結果、旧河川の工事によりその部分の門跡は失なわれてしまつたが、掘削の断面に門の土堤と堀の部分の痕跡が認められ、位置及び土層についての資料を得ることができた。

調査の結果によれば、旧地籍図から想定した位置にはほぼ一致することがわかった。

埋土の上層には焼土及び灰化物が多量に含まれ炭火によるものとみられる。

また、埋土上層中より、近世の磁器類の破片を検出した。前橋城とは係わりのないものとみられる。



## 10. 芳賀団地遺跡



事業名 芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業  
整理期間 平成5年4月1日～平成6年3月31日  
担当者 井野誠一・伊藤良（前橋市教育委員会文化財保護課）

整理の経緯と状況  
芳賀団地遺跡整理事業 昭和48年度から昭和55年度に発掘調査が行なわれた芳賀団地遺跡群（北部団地・西部団地・東部団地遺跡）の調査報告書刊行にむけて整理作業を実施している。

すでに、東部団地・西部団地遺跡分の4巻は刊行がなされ、5年度は北部団地遺跡2巻のうちの1巻の刊行作業を行なった。

芳賀北部団地遺跡は昭和48・49年度に発掘調査が行なわれたが、市内での最初の大規模な大規模調査であった。しかし、調査体制はまだ充分とは言えず、担当者は数々の苦労を克服しつつの調査になつた。  
芳賀北部団地遺跡分は、古墳～平安編と绳文・中近世編の2巻とし、考察については最終巻の6巻（平成7年度刊行予定）に収録予定である。

第5巻には住居跡227軒、製鉄址3基、廻立柱建物跡8棟、溝路28条、井戸跡5

基、土坑67基を収録した。（整理途上での増減がある）

第5巻は以上の遺構に係わる事実記載とし、考察については第6巻で扱うこととした。

それに伴い、編集委員会において考察欄の構成・分担の検討を行ない、基礎資料の収集に入った。平成6年度には一部執筆に入る予定である。平成6年度は以上の作業の他に、縄文・中近世編刊行にむけての整理作業を進めることとした。

台帳整備事業 市内における調査の成果を台帳としてまとめるとともに、過去に調査が行なわれた遺跡の遺物について活用をはかるための復元等の作業を進めている。

また、資料整備として古墳等の測量を行なった。5年度は龜塚山古墳の測量を実施した。6年度は文殊山・阿弥陀山古墳の測量を予定している。

さらに、年間の発掘調査結果（平成4年度分）をパンフレットにまとめ、市民に配布した。

また、発掘調査の成果である出土品については、重要なものを市役所1階のショーケース内に順次展示している。



## 11. 市内遺跡



事業名 埼玉文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）

所在地 市内19カ所

調査期間 平成5年4月15日～平成6年3月31日

担当者 井野誠一・伊藤良（前橋市教育委員会文化財保護課）

調査面積 3,338.2m<sup>2</sup>

調査の経緯と状況 前橋市では各種開発事業に先立つ遺跡の範囲確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査について平成3年度より公費（補助金）で対応している。

5年度は調査件数19件（うち個人住宅建設に伴う調査1件）を実施した。

近年の経済の低迷で民間の開発件数は減少しているが、逆に公共開発に係わる確認調査の件数は増加している。

5年度は確認調査地点のうち5カ所が遺跡と認められた。

5遺跡のうち2遺跡は保存協議書を締結して現状保存となり、1遺跡は調査が行なわれた。また、2遺跡は現在その取り扱いについて協議を続けている。

保存

前橋町で確認された入替戸・十二原遺跡

は繩文時代の住居跡及び土坑が検出されたが、協議の結果現状で保存されることとなった。

緑社町で確認された緑社二子山古墳周囲については、協議の結果、設計変更を行ない、現状で保存されることとなった。

調査

前橋町の城城遺跡は個人住宅建設に伴う調査として実施された。住宅の裏に急傾斜の崖があり、崩壊による危険が認められたため、削平が及ぶ部分について発掘調査を行なった。中世山城の堀及び曲輪等についての貴重な資料を得ることができた。

協議

元郷社町の上野国分寺参道遺跡は、国分寺参道想定地で、参道の確認調査が実施された。調査の結果、参道は確認されなかったが、住居跡・溝等が確認され、現在保存協議中である。

川曲町の柳橋遺跡は平安時代の水田跡が検出されており、現存保存協議中である。

## 6 大室公園史跡整備事業

### (1) 大室公園史跡整備委員会

平成5年度は、大室公園史跡整備委員会を1回開催すると共に、委員会の下でより専門的、実務的な業務を担当する古墳整備部会（中二子古墳範囲確認調査）民家変遷部会（古代住居資料収集）資料館部会（資料館建設基本構想資料収集）を各3回開催し、事業を進めてきました。

各部会の詳しい事業内容については別記しましたが、各部会、各部長会、委員会等の事業進捗にあわせて、事務局の打ち合わせも9回開きました。大室公園史跡整備委員会の経緯

・平6. 2…文化庁調査官事前指導

・平6. 2…平成6年度委員会開催

（通算第7回目）

### (2) 古墳整備部会

史跡整備のための基礎資料である古墳の規模、形状等を明らかにするため、国指定史跡中二子古墳の西半分について範囲確認調査を実施しました。文化庁の許可を得た後、幅2mのトレンチ調査、墳丘、周堀調査等を約4ヶ月間おこないました。

この間、7月には、レーダー探査を実施し、葺石の状況や石室の位置等を推定しました。

尚、東半分については、平成6年度調査を実施する予定です。

#### 調査の結果

- ・墳丘は上下2段で構成され、葺石が中堤の内側、下段墳丘斜面、上段墳丘斜面を取り巻いて、葺かれる
- ・周堀は二重になっている（外堀・中堤・内堀）
- ・中堤の内外、基壇面、墳頂部にはそれぞれ埴輪が巡らされている。
- ・古墳は6世紀初頭頃に降下した標名山の火山灰層の上に造られている。

等が判明しました。

・平5. 7…中二子古墳レーダー探査実施

・平5. 9…平成5年度第1回部会開催

・平5. 10…平成4年度第2回部会開催

・平5. 2…平成4年度第3回部会開催

・平6. 3…大室公園史跡整備委員会副委員長  
　　国立歴史民俗博物館教授 白石教授指導

### (3) 民家変遷部会

今年度は古代住居に関する調査研究を進め、大室公園内の発掘の成果を基にした古代住居や渋川中筋遺跡の古代住居復原を視察し、情報収集しました。

・平5. 5…平成5年度第1回部会開催

・平5. 10…平成5年度第2回部会開催

（中筋遺跡調査視察）

・平6. 1…平成5年度第3回部会開催



### (4) 資料館部会

資料館建設のための独自の基本構想策定を目指し、関連資料の収集及び調査研究を行いました。このなかで、展示資料のカード化を検討し、大室公園内の発掘成果による遺物を中心にしたカードを作成しました。

・平5. 7…平成5年度第1回部会開催

・平5. 9…平成5年度第2回部会開催

・平6. 1…平成5年度第3回部会開催

平成5年度大室公園史跡整備委員会組織

○ 史跡整備委員会

	氏名	職名
指導	加藤 允彦	文化庁文化財保護部記念物課 文化財調査官
顧問	岡本 信正	前橋市教育委員会教育長
委員	近藤 義雄	前橋市文化財調査委員
	白石太一郎	国立歴史民俗博物館教授
	梅沢 重郎	群馬大学教授
	伊東 功	群馬県都市施設課長
	荒畑 大治	群馬県教育委員会文化財保護課長
	松島 栄治	古墳整備部会部会長
	福田 紀雄	民家変遷部会部会長
	阿久津宗二	資料館部会部会長
	立川 宏二	前橋市総務部長
	近藤 丈	前橋市公園緑地部長
	有坂 淳	前橋市教育委員会管理部長
	渡辺 勝利	前橋市総務部財政課長
	中西 誠一	前橋市教育委員会総務課長

○古墳整備部会

部会長	松島 栄治	前橋市文化調査委員
幹事	井上 唯雄	勢多郡富士見村立時沢小学校長
	松本 浩一	大胡町立大胡小学校長
	前沢 和之	群馬県教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財第二係長
	右島 和夫	群馬県埋蔵文化財調査センター 指導主事
	細野 茂夫	前橋市公園緑地部公園緑地課長
	高橋 正男	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長

○ 民家変遷部会

部会長	福田 紀雄	前橋市立新田小学校校長
幹事	中沢 右吾	前・前橋市文化財調査委員
	池田 修	群馬県立前橋工業高等学校教諭
	三浦茂三郎	群馬県教育委員会文化財保護課主任
	渡辺 正義	前橋市総務部人事課付副幹事
	宮下 寛	前橋市教育委員会文化財保護課 文化財保護係長

○ 資料館部会

部会長	阿久津宗二	前群馬県立歴史博物館副館長
幹事	丸山 知良	前橋市文化財調査委員
	外山 和夫	群馬県立歴史博物館 総括次長
	能登 健	群馬県埋蔵文化財調査センター 主幹所付係長
	相澤 貞順	前橋市立女子高等学校教諭
	石井 秀明	前橋市建築部建築課長
	町田 重雄	前橋市教育委員会文化財保護課長

○ 事務局

町田 重雄	前橋市教育委員会文化財保護課長
細野 茂夫	前橋市公園緑地部公園緑地課課長
青柳 和彦	前橋市公園緑地課課長補佐建設第二係長
宮下 寛	前橋市教育委員会文化財保護係長
高橋 正男	前橋市教育委員会埋蔵文化財係長
篠塚 辰夫	前橋市公園緑地課主任
丸山 直人	前橋市公園緑地課主任
駒倉 秀一	前教委文化財保護課主査
関口 季	前教委文化財保護課主査
園部 守央	前教委文化財保護課主査
山口 宗男	前教委文化財保護課主任
井野 修二	前教委文化財保護課主任
前原 静	前教委文化財保護課主任
井上 敏夫	前教委文化財保護課主任
伊藤 良	前教委文化財保護課主任
戸所 慎策	前教委文化財保護課主任

## あとがき

文化財保護の仕事は大変地味なものです。一般うけしたり、新聞をにぎわすことはあるものだと思っております。

文化財や地域の歴史に対する市民の皆様の関心の高まりに応じて、新聞やテレビ等で大きく取り上げられることに幾分かのとまどいも感じております。

文化財保護の活動は地味であっても前橋市民の文化向上に役立てようと、職員が日夜業務にはげんでいます。

この報告書を市民の皆様がご覧になって、文化財の事業に対していろんな感想をお持ちだと思います。ぜひご意見をお寄せください。

そういう意見も私たちにとっては、励みであり激励であり、反省材料としてより市民の立場にたった行政を行う力と考えております。

平成6年12月

文化財保護課長

本山 卓

平成5年度  
前橋市文化財調査委員

近藤義雄  
丸山知良  
松島栄治  
阿久津宗一  
梅沢重昭

平成5年度  
文化財保護課職員

文化財保護課長 町田重雄  
埋蔵文化財係長 高橋正寛  
文化財保護係長 宮下秀一  
主査 駒込豊一  
〃 関倉孝二  
主任 口守寛二  
〃 宗誠一  
主任 守谷修二  
〃 野原一  
主任 塩井欣一  
〃 原前真一  
主任 野井敏仁  
〃 原上一  
主任 伊戸慎吉  
〃 所野一  
主任 新井吉真  
主任 井上一  
主任 斎藤一  
主任 伊戸慎吉  
主任 野井一  
主任 新井一  
主任 大山一  
主任 阿久津一  
主任 知宗一

平成5年度文化財調査報告書第24集

平成6年12月15日印刷  
平成6年12月20日発行  
発行 前橋市教育委員会文化財保護課  
前橋市上堀町664-4  
印 刷 上海印刷工業株式会社  
前橋市天川原町305-1

